

大阪医科薬科大学薬学部 研究業績

2022 年度

(2022 年 4 月～2023 年 3 月)

目次

医療薬学領域

病態分子薬理学研究室	4
薬品作用解析学研究室	6
薬物治療学研究室	8
薬物治療学Ⅱ研究室	10
循環病態治療学研究室	13
病態生化学研究室	16
生体分析学研究室	18

薬学臨床領域

薬剤学研究室	21
製剤設計学研究室	23
社会薬学・薬局管理学研究室	27
臨床漢方薬学研究室	30
臨床薬学教育研究センター	32
衛生化学研究室	39

生物・予防薬領域

感染制御学研究室	41
生体機能解析学研究室	43
生化学研究室	44
薬品物理化学研究室	45

創薬科学領域

機能分子創製化学研究室	46
医薬分子化学研究室	47
有機薬化学研究室	50
生薬科学研究室	53
分子構造化学研究室	55

薬学教育領域

薬学教育推進センター.....	57
-----------------	----

薬学研究支援センター

薬学研究支援センター.....	58
-----------------	----

総合科学領域

自然学グループ	59
言語文化学グループ	60
人間文化学グループ	62

病態分子薬理学研究室

学術論文

Keisuke Nakagawa, Fumika Kobayashi, Yoshiki Kamei, Masashi Tawa, Mamoru Ohkita. 2022. Acute Kynurenine Exposure of Rat Thoracic Aorta Induces Vascular Dysfunction via Superoxide Anion Production. *Biol Pharm Bull* **45**:522-527, doi:10.1248/bpb.b21-01079

Masashi Tawa, Junya Nagano, Junpei Kitama, Shunto Abe, Ako Fujita, Keisuke Nakagawa, Mamoru Ohkita. 2022. Ameliorative effects of beetroot juice supplementation on monocrotaline-induced pulmonary hypertension in rats. *Future Pharmacol* **2**:547-557, doi:10.3390/futurepharmacol2040033

総説

Masashi Tawa, Tomio Okamura. 2022. Factors influencing the soluble guanylate cyclase heme redox state in blood vessels. *Vascul Pharmacol* **1**:107023, doi:10.1016/j.vph.2022.107023

学会発表等

Masashi Tawa, Junya Nagano, Junpei Kitama, Shunto Abe, Ako Fujita, Keisuke Nakagawa, Mamoru Ohkita : Ameliorating effects of nitrate-rich beetroot juice supplementation on monocrotaline-induced pulmonary hypertension in rats. The 12th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, 10 月（仙台）

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守 : モノクロタリン誘発性肺高血圧症ラットに対するビートルートジュース摂取の進行抑制効果. 第 51 回日本心脈管作動物質学会, 7 月（東京）

中川 恵輔, 戸田 成美, 小淵 修平, 田和 正志, 大喜多 守 : 尿毒素インドキシル硫酸の飲水投与が血管機能に及ぼす影響. 第 141 回日本薬理学会近畿部会, 7 月（Web）

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守 : 可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬 BAY 60-2770 の抗冠攣縮作用. 第 141 回日本薬理学会近畿部会, 7 月（Web）

中川 恵輔, 中川 愛海, 田中 雅美, 石川 梨乃, 犬塚 理奈, 平田 哲也, 松村 靖夫, 大喜多 守 : 杜仲葉エキスを慢性摂取は糖尿病に併発する腎障害および血管内皮機能障害を改善する. 第 96 回日本薬理学会年会（JPW2022）, 12 月（横浜）

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守 : 摘出冠動脈における可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬 BAY 60-2770 の抗攣縮作用. 第 96 回日本薬理学会年会 (JPW2022) , 12 月 (横浜)

中川 恵輔, 戸田 成美, 小渕 修平, 田和 正志, 大喜多 守 : indoxyl sulfate 慢性曝露が血管内皮機能に与える影響. 第 32 回日本循環薬理学会, 1 月 (東京)

中川 恵輔, 戸田 成美, 小渕 修平, 田和 正志, 大喜多 守 : 正常ラットに対する尿毒素 indoxyl sulfate 飲水投与が血管内皮機能に及ぼす影響. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

薬品作用解析学研究室

学術論文

M. Kato, N. Kunisawa, S. Shimizu, H. A. Iha, Y. Ohno. 2022. Mechanisms Underlying Dopaminergic Regulation of Nicotine-Induced Kinetic Tremor. *Front Pharmacol.* **13**:938175, doi: 10.3389/fphar.2022.938175.

総説

清水 佐紀, 大野 行弘. 2022. カラー図説：抗発作薬の作用機序. "日本臨牀" 2022 年 12 月号 特集「てんかん診療update」 :1883-1887,

解説・プロシーディング・紀要・その他

大野 行弘, 國澤 直史, 加藤 将貴, 清水 佐紀. 2022. アストロサイトの空間的カリウム緩衝機構に着目したニコチン薬理作用のグリア機序解析. 令和3 年度喫煙財団研究年報 :185-188, ISSN : 0918-6425

学会発表等

石崎 悠斗, 清水 佐紀, 豊嶋 友未香, 住吉 孝明, 三塩 沙羅, 服部 達矢, 小垂 祐貴, 大野 行弘 : 統合失調症治療におけるムスカリン M4 受容体の機能解析. 第 141 回日本薬理学会近畿部会, 7 月 (Web)

加藤 将貴, 國澤 直史, 清水 佐紀, 芹川 忠夫, 大野 行弘 : けいれん発現調節因子 Phf24 欠損による扁桃核グルタミン酸および GABA 遊離の変化. 第 141 回日本薬理学会近畿部会, 7 月 (Web)

毎田 愛莉, 清水 佐紀, 石崎 悠斗, 森山 芽衣, 宮越 樹里, 佐納 匠, 大野 行弘 : Lipopolysaccharide による神経炎症性アルツハイマー病モデルの確立. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

廣瀬 由佳, 中野 諒子, 堀名 宏紀, 清水 佐紀, 大野 行弘 : Lipopolysaccharide 誘発急性うつ症状に対する Kir4.1 チャンネル阻害薬の作用評価. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

清水 佐紀, 石崎 悠斗, 豊嶋 友未香, 住吉 孝明, 大野 行弘 : 統合失調症治療におけるムスカリン M4 受容体作動薬の有用性評価. 第 52 回日本神経精神薬理学会年会 (BPCNPNP4 学会合同年会) , 11 月 (東京)

Saki Shimizu, Ryoko Nakano, Yuka Hirose, Kouki Horina, Yukihiro Ohno : Evaluation of the effects of Kir4.1 channel inhibitors on lipopolysaccharide-induced depressive behavior. 第 96 回日本薬理学会年会 (JPW2022) , 12 月 (横浜)

Yuto Ishizaki, Saki Shimizu, Airi Maida, Mei Moriyama, Takumi Sano, Juri Miyakoshi, Takashi Kuramoto, Yukihiro Ohno : Role of hyperpolarization activated cyclic nucleotide-gated (HCN) channel 1 in modulating seizure susceptibility to pilocarpine . 第 96 回日本薬理学会年会 (JPW2022) , 12 月 (横浜)

國澤 直史, 加藤 将貴, 小田 明奈, 白川 美波, 坂口 茉鈴, 清水 佐紀, 大野 行弘 : ニコチンによる運動興奮症状におけるアストロサイトの関与. 第 96 回日本薬理学会年会 (JPW2022) , 12 月 (横浜)

清水 佐紀, 堀名 宏紀, 中野 諒子, 廣瀬 由佳, 大野 行弘 : コルチコステロン慢性投与マウスのうつ様症状に対する Kir4.1 チャネル阻害薬の作用評価. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

石崎 悠斗, 清水 佐紀, 豊嶋 友未香, 住吉 孝明, 大野 行弘 : MK-801 による認知障害に対するムスカリン M4 受容体作動薬の改善作用. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

國澤 直史, 加藤 将貴, 小田 明奈, 坂口 茉鈴, 白川 美波, 清水 佐紀, 大野 行弘 : ニコチンによる運動興奮症状に対するアストロサイト選択的抑制剤フルオロクエン酸の影響. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

薬物治療学研究室

学術論文

S. Hosogi, A. KUWAHARA, Y. KUWAHARA, S. TANAKA, C. SHIMAMOTO, N. TAGAWA, I. KATO, K. YOSHIMOTO, W. AOI, K. TAKATA, H. MIYAZAKI, N. NIISATO, Y. TSUBO, K. YAGI, T. NAKAHARI, Y. MARUNAKA. 2023. Mumefural prevents insulin resistance and amyloid-beta accumulation in the brain by improving lowered interstitial fluid pH in type 2 diabetes mellitus. *Biomedical Research* **44**:17-29, doi:10.2220/biomedres.44.17

D. Saito, C. Suzuki, S. Tanaka, S. Hosogi, K. Kawaguchi, S. Asano, S. Okamoto, M. Yasuda, S. Hirano, T. Inui, Y. Marunaka, T. Nakahari. 2023. Ambroxol-enhanced ciliary beating via voltage-gated Ca²⁺ channels in mouse airway ciliated cells. *European Journal of Pharmacology* **941**:175496, doi:10.1016/j.ejphar.2023.175496

Y. Kohda. 2023. Effects of continuous thiamine intake on onset and progression of type 2 diabetes in leptin-receptor deficient mice. *Fundam Toxicol Sci.* **10**:83-90, <https://doi.org/10.2131/fts.10.83>

学会発表等

田中 早織, 近澤 有里奈, 山副 祥太郎, 松村 人志 : 早期段階での 2 型糖尿病合併脂質異常症ラットを用いた低脂肪食摂取が血中脂質濃度改善効果に与える影響. 第 35 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 5 月 (Web)

米島 立稀, 東野 萌, 田中 早織 : 2 型糖尿病合併脂質異常症ラットを用いて脂質含有量の異なる 2 種類 (高脂肪食及び低脂肪食) の食事療法が血中脂質濃度に与える影響の違い. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

東野 萌, 米島 立稀, 田中 早織 : 人参養栄湯が 2 型糖尿病マウスの脂質異常症改善効果に与える影響. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

田中 早織, 藤塚 万椰, 日下 知映里, 島本 史夫 : 胃酸分泌刺激物質が胃粘液分泌機構に与える影響. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

松本 風真, 下村 梨央, 田中 早織 : うめ果汁粉末が 2 型糖尿病発症早期段階モデルラットの血中脂質濃度改善に与える影響. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

Y. Kohda, N. Fukuishi, H. Matsumura : Focus on the diabetic brain: Upregulation of orexin receptor and plasma orexin level in obese diabetic rats. The 96th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, 10 月 (横浜)

薬物治療学Ⅱ研究室

学術論文

H. Matsunaga, A. Fukumori, K. Mori, T. Morihara, S. Sato, K. Kitauchi, K. Yanagida, K. Taguchi, T. Honda, K. Tomonaga. 2023. Ribavirin Treatment for Severe Schizophrenia with Anti-Borna Disease Virus 1 Antibodies 30 Years after Onset. *Case Rep Psychiatry* **2023**:4899364, doi: 10.1155/2023/4899364.

K. Yanagida, R. Maruyama, S. Tagami, T. Kudo, M. Okochi, A. Fukumori. 2023. APLP2 is predominantly cleaved by β -secretase and γ -secretase in the human brain. *Psychogeriatrics*. **23(2)**:311-318, doi: 10.1111/psyg.12933.

Feilen LP, Chen SY, Fukumori A, Feederle R, Zacharias M, Steiner H. 2022. Active site geometry stabilization of a presenilin homolog by the lipid bilayer promotes intramembrane proteolysis.. *Elife*. **11**:e76090, doi: 10.7554/eLife.76090.

特許

福森 亮雄, 岡田 健, 柳田 寛太, 北岡 京花, 田口 和美. 自己抗体の検出方法, 特願 2023-009208, 大阪医科薬科大学

福森 亮雄, 柳田 寛太, 高嶋 結衣, 岡田 健. Tyro3 断片ペプチド及びその製造方法, 特願 2023-003571, 大阪医科薬科大学

学会発表等

H. Steiner, R. Maruyama, S. Funamoto, T. Kudo, A. Fukumori : GAMMA-SECRETASE EXOSITES AS TARGETS FOR SUBSTRATE-SELECTIVE LOWERING OF ABETA GENERATION. AD/PD™ 2023 Alzheimer's & Parkinson's Diseases Conference, 3月 (Gothenburg)

高嶋 結衣, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄 : アルツハイマー病の病原物質である凝集 A β を認識する受容体である Tyro3 の代謝. 日本薬学会第 143 年会, 3月 (札幌)

高野 結月, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄 : アルツハイマー病における凝集した A β に対する生体反応に関連する分子である IL3R α の代謝. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

大島 真穂, 柳田 寛太, 岡田 健, 新宮 愛, 山口 敬子, 浅野 晶子, 土井 光暢, 福森 亮雄 : アルツハイマー病の A β 産生酵素 γ セクレターゼの切断スピードはなぜ遅いのか?. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

北岡 京花, 岡田 健, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 加藤 隆児, 松永 秀典, 福森 亮雄 : 抗 NMDA 受容体脳炎の原因となる自己抗体による病態機序の解明. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

濱田 柚香, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄 : 培養細胞においてミミズ抽出液は線溶促進的に働く. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

大西 由梨恵, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄 : APP ファミリータンパク APLP1 の γ セクレターゼによる連続切断の解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

村上 楓華, 柳田 寛太, 福森 亮雄, 藤田 芳一, 山口 敬子 : オルトカルボキシフェニルフルオロンを用いたホウ素化合物の蛍光光度定量法について. 第 82 回分析化学討論会, 5 月 (茨城)

仲田 百花, 柳田 寛太, 福森 亮雄, 藤田 芳一, 山口 敬子 : キサンテン系色素と金属イオンを用いるトランスフェリンの吸光光度定量法について. 第 82 回分析化学討論会, 5 月 (茨城)

渋谷 千夏, 柳田 寛太, 福森 亮雄, 藤田 芳一, 山口 敬子 : オルトスルホフェニルフルオロン(SPF)とパラジウム(II)を用いる葉酸の吸光光度分析について. 第 82 回分析化学討論会, 5 月 (茨城)

一本木 之人, 池田 彩, 渡邊 文之, 田沼 和紀, 小川 恭平, 恩田 光子, 椎名 未貴, 庄司 雅紀, 福森 亮雄, 増田 由佳子, 前田 初代 : 他職種が抱く薬剤師との連携の現状及び薬剤師業務に認知行動療法的アプローチを用いることへの期待～当学会会員アンケートから～. 第 22 回日本認知療法・認知行動療法学会, 11 月 (東京)

福森 亮雄：米国でのアデュカヌマブの迅速承認とこれからのアルツハイマー病治療法開発の戦略. 第 24 回近畿老年期認知症研究会, 12 月（大阪）

福森 亮雄：アミロイド抗体療法とこれからのアルツハイマー病の診断/治療法開発. 関西大学・大阪医科薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構 研究発表会, 1 月（大阪）

循環病態治療学研究室

学術論文

Yamada T, Kato R, Ijiri Y, Nishihara M, Neo M. 2023. Disproportionality analysis of acetaminophen-induced hepatic disorders with and without immune checkpoint inhibitors. *Int J Clin Pharm.* **45(2)**:442-450, doi:10.1007/s11096-022-01527-z

Ichihashi A, Inamoto T, Uchimoto T, Nakamura KO, Komura K, Yano Y, Nishimura K, Kinoshita S, Nishio K, Fukushima T, Nakamori K, Matsunaga T, Tsutsumi T, Tsujino T, Uehara H, Takahara K, Yamamoto K, Kato R, Ijiri Y, Hayashi T, Azuma H. 2023. Tissue Distribution of Cisplatin by Intra-arterial Infusion Route in Comparison to Systemic Route: Implication to Therapy for Node-positive Bladder Cancer. *In vivo.* **37(1)**:143-148, doi:10.21873/invivo.13063

Yokoe S, Hayashi T, Nakagawa T, Kato R, Ijiri Y, Yamaguchi T, Izumi Y, Yoshiyama M, Asahi M. 2023. Augmented O-GlcNAcylation exacerbates right ventricular dysfunction and remodeling via enhancement of hypertrophy, mitophagy, and fibrosis in mice exposed to long-term intermittent hypoxia. *Hypertens Res.* **46(3)**:667-678, doi:10.1038/s41440-022-01088-8

Noda T, Kato R, Ozato Y, Kawai Y, Yamamoto M, Kagawa Y, Azuma M, Yamamoto K, Kusanagi M, Uryu K, Harada H, Ijiri Y, Hayashi T, Tanaka K. 2022. Decreased Plasma Acetaminophen Glucuronide/Acetaminophen Concentration Ratio warns the onset of Acetaminophen-Induced Liver Injury. *Biopharm Drug Dispos.* **43(3)**:108-116, doi:10.1002/bdd.2316

Noda T, Kato R, Hattori T, Furukawa Y, Ijiri Y, Tanaka K. 2022. Role of caspase-8 and/or -9 as biomarkers that can distinguish the potential to cause toxic- and immune related-adverse event, for the progress of acetaminophen-induced liver injury. *Life Sci.* **294**:120351, doi:10.1016/j.lfs.2022.120351

解説・プロシーディング・紀要・その他

加藤 隆児, 井尻 好雄. 2022. 薬剤紹介 ロケルマ懸濁用散分包 5g、10g(ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物). *循環制御* **43**:37-41,

加藤 隆児, 井尻 好雄. 2022. 新薬くろ〜ずあっぷ(第 257 回) ケレンディア錠 10mg,20mg. *調剤と情報* **28**:2684-2693,

竹末 芳生, 木村 利美, 松元 一明, 茂見 茜里, 添田 博, 高橋 佳子, 辻 泰弘, 中馬 真幸, 丹羽 隆, 花井 雄貴, 藤居 賢, 真弓 俊彦, 庄司 健介, 川村 英樹, 尾田 一貴, 増田 智先, 池田 賢二, 山田 智之, 加藤 隆児, 山本 武人, 猪川 和朗, 小林 昌宏, 浜田 幸宏, 寺田 智祐. 2022. 抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022. *日本化学療法学会雑誌* **70**:1-72,

加藤 隆児, 井尻 好雄. 2022. 薬剤紹介 ミネプロ錠 1.25mg,2.5mg,5mg(エサキセレノン). *循環制御* **43**:110-114,

加藤 隆児. 2022. 薬物性肝障害 Up-to-date(Q&A). *循環制御* **43**:115-123,

学会発表等

井関 汐里, 乾 友梨香, 田丸 侑奈, 加藤 隆児, 古賀 純一郎, 井尻 好雄 : 低酸素負荷誘発血管リモデリングに対する Aldosterone 局所産生機構の解明. 第 43 回日本循環制御医学会総会・学術集会, 5 月 (長崎)

津田 英利佳, 高見 美奈子, 中谷 将希, 加藤 隆児, 古賀 純一郎, 井尻 好雄 : 心筋細胞における Aldosterone の局所産生機構の解明. 第 43 回日本循環制御医学会総会・学術集会, 5 月 (長崎)

小松 映月, 中谷 将希, 井関 汐里, 桑迫 仁博, 松林 恵理, 加藤 隆児, 井尻 好雄 : 左室収縮機能障害における Aldosterone の predictive biomarker としての評価. 第 38 回日本 TDM 学会・学術大会, 5 月 (茨城)

桑迫 仁博, 中川 太陽, 加藤 隆児, 井尻 好雄 : 抗 digoxin 抗体と aldosterone のクロスリアクションの評価. 第 38 回日本 TDM 学会・学術大会, 5 月 (茨城)

岸 七海, 岡井 湖子, 田中 沙祈, 野田 拓誠, 服部 友香, 古川 裕一, 加藤 隆児, 井尻 好雄, 田中 一彦 : アセトアミノフェン誘発性肝障害の進行について, 毒性および免疫関連の有害事象を引き起こす可能性を区別できるバイオマーカーとしてのカスパーゼ-8/-9 の役割. 第 38 回日本 TDM 学会・学術大会, 5 月 (茨城)

河合 真未, 山崎 理久, 加藤 隆児, 井尻 好雄, 林 哲也 : Semaxanib-Hypoxia 肺高血圧モデルラットにおけるがん治療関連肺高血圧発症機序の解明. 第 38 回日本 TDM 学会・学術大会, 5 月 (茨城)

的場 凌, 四宮 優, 加藤 隆児, 井尻 好雄, 林 哲也 : 肺高血圧と aldosterone との関連性.
第 38 回日本 TDM 学会・学術大会, 5 月 (茨城)

加藤 隆児 : JSTDM-IATDMCT Joint Symposium for TDM in Asia-Pacific Region (座長・オーガナイザー). 第 38 回日本 TDM 学会・学術大会, 5 月 (茨城)

加藤 隆児 : シンポジウム②高齢者における循環器疾患治療薬の適正使用を薬学的視点から考えるー腎機能から見た適正使用. 第 6 回日本老年薬学会学術大会, 5 月 (名古屋)

林 真子, 乾 友梨香, 松崎 晴佳, 吉田 梨花, 澤見 歩佳, 加藤 隆児, 井尻 好雄 : β -crystallin が肥大型心筋症の責任遺伝子である可能性. 第 6 回日本臨床薬理学会近畿地方会, 7 月 (Web)

加藤 隆児 : 世界に向けた発信のススメ:皆さんの研究成果を国際学会で発表してみませんか? 薬剤師・薬学研究者が国際学会で発表することのメリット. 第 16 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会, 10 月 (長崎)

加藤 隆児 : 特異体質性薬物性肝障害発症機序解明における免疫細胞の必要性. 第 5 回医薬品毒性機序研究会, 12 月 (東京)

加藤 隆児 : 循環器領域における基礎と臨床の融合研究 (座長・オーガナイザー). 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (北海道)

病態生化学研究室

学術論文

K. Fujimori, S. Uno, K. Kuroda, C. Matsumoto, T. Machara. 2022. Leukotriene C4 synthase is a novel PPAR γ target gene, and leukotriene C4 and D4 activate adipogenesis through cysteinyl LT1 receptors in adipocytes. *Biochim Biophys Acta Mol Cell Res.* **1869(3)**:119203, doi: 10.1016/j.bbamcr.2021.119203

総説

K. Fujimori. 2022. Prostaglandin D2 and F2 α as regulators of adipogenesis and obesity. *Biol Pharm Bull.* **45(8)**:985-991, doi: 10.1248/bpb.b22-00210

学会発表等

小池 敦資, 小野 蓮乃, 藤森 功 : すい臓がん細胞における MLKL の機能解析. 第 68 回日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (滋賀)

林 薫子, 小池 敦資, 藤森 功 : 肺線維症急性増悪の炎症誘導におけるマクロファージの関与についての検討. 第 68 回日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (滋賀)

細見 健太, 前原 都有子, 藤森 功 : 急性膵炎におけるプロスタグランジン D2 の機能解析. 第 68 回日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (滋賀)

林 薫子, 小池 敦資, 藤森 功 : 肺線維症急性増悪における炎症誘導機構の解析. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

細見 健太, 前原 都有子, 藤森 功 : 急性膵炎におけるプロスタグランジン D2 の機能解析. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

小池 敦資, 林 薫子, 藤森 功 : 肺線維症急性増悪における炎症誘導機構の解析. 第 95 回日本生化学会大会, 11 月 (名古屋)

細見 健太, 前原 都有子, 藤森 功 : H-PGDS 阻害剤はセルレイン誘発性急性膵炎を抑制する. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

林 薫子, 小池 敦資, 藤森 功 : 肺線維症の急性増悪における炎症誘導機構. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

小池 敦資, 小野 蓮乃, 藤森 功 : MLKL 阻害剤によるすい臓がん細胞の増殖抑制効果の解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

大類 朱莉, 日谷 朱里, 小池 敦資, 藤森 功 : SLC トランスポーターによるマクロファージ分極化制御機構の解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

中辻 匡俊, 藤森 功 : プロスタグランジン E2 によるトリプルネガティブ乳癌における Hippo 経路の制御. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

生体分析学研究室

学術論文

Kondo N, Hirano F, Temma T. 2022. Evaluation of 3-Borono-L-Phenylalanine as a Water-Soluble Boron Neutron Capture Therapy Agent. *Pharmaceutics* **14(5)**:1106, doi: 10.3390/pharmaceutics14051106

Hashimoto T, Kondo N, Makino A, Kiyono Y, Temma T. 2022. Radiobrominated probe targeting activated p38 α in inflammatory diseases. *Ann Nucl Med.* **36(10)**:845-852, doi: 10.1007/s12149-022-01764-2

Takada S, Kondo N, Hagimori M, Temma T. 2022. Development of a switching-type fluorescence sensor for the detection of boronic acid-containing agents. *Anal Sci.* **38(10)**:1289-1296, doi: 10.1007/s44211-022-00158-8.

Kondo N, Aoki E, Takada S, Temma T. 2022. A Red-Emitting Fluorescence Sensor for Detecting Boronic Acid-Containing Agents in Cells. *Sensors* **22(19)**:7671, doi: 10.3390/s22197671.

Kondo N, Takada S, Hagimori M, Temma T. 2023. Development of a 2-(2-Hydroxyphenyl)-1 H-benzimidazole-Based Fluorescence Sensor Targeting Boronic Acids for Versatile Application in Boron Neutron Capture Therapy. *Cancers* **15(6)**:1862, doi: 10.3390/cancers15061862.

学会発表等

Takada S, Kondo N, Temma T : Development of an off/on-type fluorescence sensor to visualize the intracellular distribution of boronoagents. 13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology, 9月 (京都)

Hirano F, Kondo N, Murata Y, Sudani A, Temma T : Development of α -methylated 3-boronophenylalanine derivatives with improved LAT1/LAT2 selectivity for BNCT. 13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology, 9月 (京都)

Kanai Y, Watanabe T, Ohta Y, Hattori Y, Uehara K, Naka S, Sakai T, Kondo N, Temma T, Kirihata M : Development of novel [^{18}F] FBPA synthesis method from pinacol boran precursor and [^{18}F] fluoride ion using an automatic synthesizer. 13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology, 9 月 (京都)

高田 慎也, 近藤 直哉, 萩森 政頼, 天満 敬 : ボロン酸の高感度蛍光分析のための蛍光オフオンセンサーの開発 : TQ-HPBI の合成と培養細胞を用いた有効性評価. 日本分析化学会第 71 年会, 9 月 (岡山)

近藤 直哉, 天満 敬 : LAT1 選択性向上を指向した BNCT 用薬剤 α メチル化 3-ボロノフェニルアラニン誘導体に関する基礎的評価. 第 81 回日本癌学会学術総会, 9 月 (横浜)

高田 慎也, 近藤 直哉, 萩森 政頼, 天満 敬 : ボロン酸の細胞内局在評価を目的とした蛍光センサーの開発に関する研究. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

水口 芹奈, 近藤 直哉, 天満 敬 : 線維芽細胞活性化タンパク質を標的とした SPECT イメージングのための [^{111}In] In-FAPI-04 の合成に関する検討. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

米澤 摩衣子, 近藤 直哉, 天満 敬 : Exendin-4 の 3 位 Asp 置換体の GLP-1 受容体標的プローブ母体としての有効性評価. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

二木 未来哉, 近藤 直哉, 金井 泰和, 天満 敬 : ポジトロン断層撮像法による活性化 p38 α イメージングのための放射性フッ素標識 R1487 の合成に関する検討. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

高田 慎也, 近藤 直哉, 萩森 政頼, 天満 敬 : 細胞内ハウ素局在解析と血中ハウ素濃度定量のためのボロン酸検出用蛍光センサーの開発. 第 18 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 10 月 (つくば)

平野 楓子, 近藤 直哉, 村田 優介, 壽谷 彩, 天満 敬 : フッ素導入 3-ボロノフェニルアラニン誘導体の BNCT 用薬剤としての有効性評価. 第 18 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 10 月 (つくば)

若森 恵太, 宮崎 杏奈, 金井 泰和, 田口 ありさ, 大田 洋一郎, 尾江 悟, 秋澤 宏行, 切畑 光統, 近藤 直哉, 天満 敬 : 脂肪酸結合タンパク質 4 の PET イメージングのための [18F]dFTAP1 の合成に関する基礎的検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

宮崎 杏奈, 石松 花蓮, 西川 侑里, 金井 泰和, 若森 恵太, 高田 慎也, 平野 楓子, 近藤 直哉, 天満 敬 : がん微小環境評価のための STAT3 標的 PET 用イメージングプローブの開発に関する基礎的検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

平野 楓子, 近藤 直哉, 村田 優介, 壽谷 彩, 天満 敬 : 3-ボロノフェニルアラニン誘導体の細胞内輸送速度解析に関する検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

青木 映里香, 近藤 直哉, 高田 慎也, 天満 敬 : ボロン酸含有薬剤の細胞内局在評価を目的とした赤色蛍光センサーの開発. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

薬剤学研究室

学術論文

H. Sun, Y. Urakami-Takebayashi, H. Motohashi, J. Nagai J. 2022. Internalization of FITC-albumin in human adipose-derived stem cells: Involvement of clathrin and caveolin. *Pharmazie* **77**(7):243-247, 10.1691/ph.2022.2340

学会発表等

J. Nagai, H. Sun, Y. Urakami-Takebayashi, H. Motohashi : Internalization of macromolecules in human adipose-derived stem cells. AASP 10th Conference, 7 月 (Web)

佐藤 涼, 越智文歌, 乾 和正, 永木 千尋, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也 : ドキソルビシン負荷ヒト脂肪幹細胞における efflux 特性と細胞 viability 変化. 日本薬剤学会第 37 年会, 5 月 (Web)

濱口 真歩, 津田 裕里, 足立 瑠衣, 山口 大輝, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也 : 腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 におけるアルブミン曝露による HIF-1 活性化に及ぼすプロスタグランジントランスポーター阻害剤の影響. 日本薬剤学会第 37 年会, 5 月 (Web)

駒澤 伸泰, 小林 道太郎, 角山 香織, カルデナス 暁東, 中村 敏明, 森 龍彦, 瀧谷 公隆, 阪本 恭子, 寺崎 文生, 鈴木 久美, 永井 純也, 中野 隆史 : 遠隔会議システムを活用した医療倫理に関する多職種連携教育の試み. 第 54 回日本医学教育学会, 8 月 (高崎)

永井 純也 : 6 年制課程薬学部生の研究活動について ― 医療系総合大学薬学部教員としての一考察 ―. 第 7 回日本薬学教育学会大会, 8 月 (Web)

竹林 裕美子, 土佐 勇策, 本橋 秀之, 永井 純也 : ヒト脂肪幹細胞における薬物トランスポーターの mRNA 発現解析. 第 72 回日本薬学会関西支部大会, 10 月 (大阪)

小島 祐輝, 満屋 領, 土佐 勇策, 池田 祐介, 藤原 祥史, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也 : ドキソルビシン誘発細胞障害におよぼす脂肪幹細胞順化培地の影響. 第 72 回日本薬学会関西支部大会, 10 月 (大阪)

永井 純也, 濱口 真歩, 津田 裕里, 足立 瑠衣, 山口 大輝, 竹林 裕美子, 本橋 秀之 : アルブミン曝露による腎近位尿細管上皮細胞 HIF-1 活性化における PGE2 の役割. 日本薬物動態学会第 37 回年会, 11 月 (横浜)

本橋 秀之, 石井 寿佳, 太田 みなみ, 竹林 裕美子, 永井 純也 : ヒト近位尿細管上皮細胞 RPTEC/TERT1 におけるベンダムスチン取り込み. 日本薬物動態学会第 37 回年会, 11 月 (横浜)

古谷 彩侑, 辻侑 梨奈, 中村 舞祐, 山西 里佳, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也 : アドリアマイシン誘発腎障害マウスの腎機能に及ぼす脂肪幹細胞の影響. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

中川 恵莉香, 久保 貴梨花, 奥田 剛充, 西崎 貴仁, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也 : ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 RPTEC/TERT1 における 1,5-anhydroglucitol の輸送機構の解明. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

製剤設計学研究室

学術論文

- X. Ma, K. Higashi, K. Fukuzawa, K. Ueda, K. Kadota, Y. Tozuka, E. Yonemochi, K. Moribe. 2022. Computational approach to elucidate the formation and stabilization mechanism of amorphous formulation using molecular dynamics simulation and fragment molecular orbital calculation. *Int J Pharm.* **615**:121477, doi:10.1016/j.ijpharm.2022.121477
- J. Y. Tse, K. Kadota, T. Nakajima, H. Uchiyama, S. Tanaka, Y. Tozuka. 2022. Crystalline rearranged CD-MOF particles obtained via spray-drying synthesis applying to inhalable formulations with high drug loading. *Cryst Growth Des.* **22**:1143-1154, doi:10.1021/acs.cgd.1c01091
- K. Kadota, K. Matsumoto, H. Uchiyama, S. Tobita, M. Maeda, D. Maki, Y. Kinehara, I. Tachibana, T. R. Sosnowski, Y. Tozuka. 2022. In silico evaluation of particle transport and deposition in the airways of individual patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Euro J Pharm Biopharm.* **174**:10-19, doi: 10.1016/j.ejpb.2022.03.010
- H. Ueda, Y. Hirakawa, T. Miyano, M. Imono, J. Y. Tse, H. Uchiyama, Y. Tozuka, K. Kadota. 2022. Design of a stable coamorphous system using lactose as an anti-plasticizing agent for diphenhydramine hydrochloride with a low glass transition temperature. *Mol Pharm.* **19**:1209-1218, doi: 10.1021/acs.molpharmaceut.2c00057
- T. Kämäräinen, K. Kadota, J. Y. Tse, H. Uchiyama, S. Yamanaka, Y. Tozuka. 2022. Modulating Pore Space Architecture of Ice-Templated Dextran Microparticles Using Molecular Weight and Concentration. *Langmuir* **38**:6741-6751, doi: 10.1021/acs.langmuir.2c00721
- Y. Murase, K. Takayama, T. Uchimoto, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka. 2022. Prediction of tablet weight variability from bulk flow properties by sparse modeling. *Powder Technol.* **407**:117681, doi: 10.1016/j.powtec.2022.117681
- Y. Hatanaka, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka. 2022. Designing amorphous formulations of polyphenols with naringin by spray-drying for enhanced solubility and permeability. *Adv Powder Technol.* **33**:103627, doi: 10.1016/j.apr.2022.103627

H. Uchiyama, S. Asai, A. Nakanishi, M. Tandia, K. Kadota, Y. Tozuka. 2022. The usability of transglycosylated stevia for the preparation of an oil-in-water submicron emulsion using a high-pressure homogenizer. *Food Sci Technol Res.* **28**:343–350, doi: 10.3136/fstr.FSTR-D-21-00166

S. Nogami, K. Kadota, H. Uchiyama, H. Arima-Osonoi, M. Shibayama, Y. Tozuka. 2022. Rheological and rupture properties of gelatin-based hydrogels formulated with polymers for drug diffusion behavior. *Polymer journal* **54**:1477-1487, doi: 10.1038/s41428-022-00681-5

著書

掛見 正郎, 戸塚 裕一, 門田 和紀. 広義 製剤学 (第2 版) :1-277

戸塚 裕一, 内山 博雅, 門田 和紀. 2022. 第III編 美容機能 第8章 難水溶性ポリフェノール含有化粧品開発を指向したコンポジット型製剤の設計. *ポリフェノールの機能と多角的応用* シーエムシー出版, 211-217

解説・プロシーディング・紀要・その他

畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 2022. JDDST 文献紹介, Improved solubility and permeability based on nifedipine-ketoconazole coamorphous formation with simultaneous dissolution behavior. *薬剤学* **82**:107-108,

特許

唐木田 直人, 山本 裕一, 藤野 卓, 門田 和紀, 戸塚 裕一, 内山 博雅. シリマリン微粒子の製造方法、シリマリン微粒子、およびシリマリン微粒子含有水性分散体の製造方法, 特願 2022-57891 , 東洋ビジュアルソリューション

田中 俊輔, 中島 稔生, 藤田 修平, 門田 和紀, 戸塚 裕一, 内山 博雅. 金属有機構造体及びその製造方法, 特願 2022-71673, 関西大学

学会発表等

S. Tanaka, S. Fujita, T. Nakajima, R. Miyashita, K. Kadota, J.Y. Tse, H. Uchiyama, Y. Tozuka :
Spray-drying-assisted microstructure control of metal-organic frameworks for application to
adsorbents and drug delivery carriers. The 7th International Conference on the Characterization and
Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials (ICCCI 2022), 11 月(山梨)

T. O. Kämäräinen, K. Kadota, J.Y. Tse, H. Uchiyama, T. Oguchi, H. Arima-Osonoi, Y. Tozuka :
Aggregation of phytoglycogen in water-ethanol mixtures characterized by small-angle X-ray
scattering and dynamic light scattering measurements. The 7th International Conference on the
Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials (ICCCI 2022), 11
月(山梨)

内山 博雅, 河合 晴香, 畑中 友太, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : CYP3A4 の阻害剤を基剤に用い
たコアモルファス設計とその評価. 日本薬剤学会第 37 年会, 5 月(京都)

畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : 異なる分子間相互作用様式を持つ非晶質
複合体粒子からの薬物の膜透過性に関する検討. 日本薬剤学会第 37 年会, 5 月(京都)

T. O. Kämäräinen, J.Y. Tse, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka : Ice templated dextran
microparticles by spray freeze drying: Influence of molecular weight and concentration. 粉体工学
会 2022 年度春期研究発表会シンポジウム, 5 月(姫路)

畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : イオン間相互作用を介した非晶質複合体
の薬物溶解度と膜透過性の関係性評価. 日本薬剤学会第 47 年会製剤・創剤セミナー, 8 月
(東京)

門田 和紀, 謝 晉頤, T. O. Kämäräinen, 内山 博雅, 戸塚 裕一 : 噴霧乾燥法による新規キャ
リア粒子による吸入粉末製剤の設計. 粉体工学会第 56 回技術討論会, 9 月(京都)

T. O. Kämäräinen, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka : Image analysis routines toward pore
characterization of spray freeze dried dextran microparticles. 粉体工学会第 56 回技術討論会, 9
月(京都)

山本 裕一, 唐木田 直人, 藤野 卓, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : 湿式粉碎処理した
シリビンの微粒化に伴う溶解性ならびに吸収性向上. 日本食品工学会 第 23 回年次大会,
8 月(岡山)

T. O. Kämäräinen, Y. Nakayama, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka : Increasing heterogeneity of supraparticles via spray drying. 粉体工学会 2022 年度秋期研究発表会, 12 月(東京)

澤間 善成, 内山 博雅, 野崎 志, 阪一, 石元 孝, 門田 和紀, 戸塚 裕一, 富田 直仁, 佐治 木 弘尚, 赤井 周司 : 医薬品フルルビプロフェンの多重重水素化による物性変化. 第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 11 月(Web)

内山 博雅 : 噴霧乾燥法に基づいた新規な非晶質製剤化技術の構築とその応用. 製剤技術学会 第 32 回大会 仲井賞若手研究者奨励賞 受賞講演, 10 月(東京)

中山 結月, Tero O. Kämäräinen, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : 噴霧乾燥法によるアミロイドナノフィブリルをバインダーとした超微粒子集合体の設計. 日本海水学会若手会第 14 回, 3 月(沖縄)

坂脇 大地, 遠藤 愛美, 北野 沙也佳, 秋本 結輝, 門田 和紀, 内山 博雅, 戸塚 裕一, 山中 真也 : 高比表面積炭酸カルシウムの合成と担体としての機能評価. 日本海水学会若手会第 14 回, 3 月(沖縄)

畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : Telmisartan-Amlodipine コアモルファス形成による難溶性薬物の吸収性改善. 日本薬学会第 143 年会, 3 月(北海道)

駒井 孝則, 東郷 太一郎, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一 : 製剤化工程でのイマチニブメシル酸塩の結晶転移に関する検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月(北海道)

内山 博雅 : 糖付加化合物が可能にする難溶性ポリフェノール化合物の可溶化. 日本薬学会第 143 年会, 3 月(北海道)

社会薬学・薬局管理学研究室

学術論文

Masaki Shoji, Hatsuyo Maeda, Fumiyuki Watanabe, Kazunori Tanuma, Atsuko Fujiwara, Yusuke Iwanaga, Atsushi Shimada, Mitsuko Onda. 2023. A non-randomized, controlled, interventional study to investigate the effects of community pharmacists' cognitive behavioral therapy-based interventions on medication adherence and relevant indicators in patients with depression. *BMC psychiatry* **23(1)**:124-124, doi: 10.1186/s12888-023-04602-5.

Kaoru Yamabe, Yukio Arakawa, Masaki Shoji, Katsushiro Miyamoto, Takahiro Tsuchiya, Katsuhiko Minoura, Yukihiro Akeda, Kazunori Tomono, Mitsuko Onda. 2022. Enhancement of *Acinetobacter baumannii* biofilm growth by cephem antibiotics via enrichment of protein and extracellular DNA in the biofilm matrices. *J Appl Microbiol.* **133(3)**:2002-2013, doi: 10.1111/jam.15712.

Masaki Shoji, Naoki Sakane, Naoki Ito, Keiji Sunayama, Mitsuko Onda. 2022. A pilot study of Pharmacist-Dietician Collaborative support and Advice (PDCA) for patients with type 2 diabetes in community pharmacy: A single-arm, pre-post study. *Pharm Pract. (Granada)* **20(2)**:2657, doi: 10.18549/PharmPract.2022.2.2657.

Risa Yorimoto, Masaki Shoji, Mitsuko Onda. 2022. Self-efficacy of community pharmacists and associated factors in counselling to support self-medication in Japan: A cross-sectional study. *Pharm Pract. (Granada)* **20(2)**:2660, doi: 10.18549/PharmPract.2022.2.2660.

Imafuku R, Nagatani Y, Shoji M. 2022. Communication Management Processes of Dentists Providing Healthcare for Migrants with Limited Japanese Proficiency. *Int J Environ Res Public Health.* **19(22)**:14672-14672, doi:10.3390/ijerph192214672

Nanaumi Y, Yoshitani A, Onda M. 2022. Impact of interventions by a community pharmacist on care burden for people with dementia: development and randomized feasibility trial of an intervention protocol. *Pilot Feasibility Stud.* **8(1)**:118, doi: 10.1186/s40814-022-01071-7

著書

恩田 光子. 2023. 第 1 章「なぜ薬剤師が薬剤経済学を学ぶのか」、第 2 章「社会保障制度における医療・介護保険制度の位置づけ」. *詳説薬剤経済学－次世代に向けた医療経済学・地域医療学－* 京都廣川書店（京都） :1-4, 5-20

解説・プロシーディング・紀要・その他

佐藤 ユリ, 太田 貴之, 朝倉 敏夫, 畠 玲子, 國井 亨, 菅谷 貴之, 恩田 光子. 2023. 副作用機序別分類に基づく調剤前患者ヒアリングによる効果. *調剤と情報* **29(2)**:247-251,

庄司 雅紀, 坂根 直樹, 伊藤 直紀, 砂山 慶次, 恩田 光子. 2022. 薬局薬剤師および管理栄養士の協働による 2 型糖尿病患者支援に対する意識・自信, および職務満足度に関する横断的研究. *調剤と情報* **28(13)**:2302-2305,

上田 昌宏, 恩田 光子. 2023. 臨床準備教育の方略を考える～近畿地区統一評価基準の活用を踏まえて～ 大阪薬科大学でのチーム基盤型学習による EBM 演習. *薬学教育* **6**:95-99,

恩田 光子. 2023. 第 4 章アメリカにおける調査結果. *令和 4 年度厚生労働省保健局医療課による委託事業「薬剤使用状況等に関する調査研究報告書」* :183-253,

北村 明日香, 庄司 雅紀. 2022. ダメダメ指導にさようなら栄養指導の○と× 薬局での栄養指導により 2 型糖尿病患者の食生活が改善したと思われた 1 例. *Nutrition Care* **15**:753-759,

庄司 雅紀. 2023. 薬剤師がうつ病患者のために医師と連携して実施する認知行動療法的アプローチの成果と今後の展望 地域でのうつ病患者支援における医薬連携の現状と, 患者心理に配慮した服薬支援の実現に向けた提言. *認知療法研究* **16**:32-34,

庄司 雅紀, 坂根 直樹, 伊藤 直紀, 砂山 慶次, 恩田 光子. 2022. 薬局薬剤師および管理栄養士の協働による 2 型糖尿病患者支援に対する意識・自信, および職務満足度に関する横断的研究. *調剤と情報* **28**:2302-2305,

学会発表等

Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Masaki Shoji : Lost in translation? Communication management process of health professionals in foreign resident patient encounters in Japan. Association for Medical Education in Europe (AMEE) Conference, 8 月 (Lyon)

佐藤 ユリ, 太田 貴之, 朝倉 敏夫, 国井 亨, 畠 玲子, 菅谷 貴之, 恩田 光子 : 副作用機序別分類に基づく調剤前患者ヒアリングによる効果. 第 55 回日本薬剤師会学術大会, 10 月 (仙台)

木科 早瑛, 前田 初代, 福森 亮雄, 恩田 光子 : 認知症患者の介護者における介護負担感と服薬介助の関連. 第 24 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 7 月 (仙台)

庄司 雅紀, 坂根 直樹, 伊藤 直紀, 砂山 慶次, 恩田 光子 : 薬局に勤務する管理栄養士と薬剤師の協働による 2 型糖尿病患者支援の効果に関する前後比較試験: PDCA Study. 第 16 回日本薬局学会学術総会, 11 月 (博多)

庄司 雅紀, 恩田 光子 : 薬局薬剤師による認知行動療法を基盤とした服薬支援の薬剤経済的評価. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

福田 裕子, 鈴木 麻友, 伊東 里紗, 稲場 純子, 金本 哲二, 佐原 敏之, 辻川 正彦, 恩田 光子 : 薬局における「退院時薬剤情報提供書」の活用状況と課題. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

恩田 光子 : シンポジウム 15 (人生 100 年時代に目ざすべき最適な薬物療法とは? ~医師・薬剤師連携によるポリファーマシー対策~). 第 64 回日本老年医学会学術集会, 6 月 (大阪)

臨床漢方薬学研究室

学術論文

Matsuda K, Tanaka Y, Ozaki K, Iida O, Shibano M. 2023. Seasonal variation in the total saponin content of platycodon roots cultivated in Japan. *J Nat Med* 77:64–72, PMID: 35972637/ DOI: 10.1007/s11418-022-01646-x

尾崎 和男, 松田 昂樹, 藤田 浩基, 草野 源次郎, 芝野 真喜雄. 2022. 国内での甘草生産の試み ウラルカンゾウ(*Glycyrrhiza uralensis* Fischer)系統間交雑の評価. *薬用植物研究* 43(2): 1-14,

解説・プロシーディング・紀要・その他

芝野 真喜雄. 2023. 国内栽培におけるキキョウ *Platycodon grandiflorus* A.DC. の地下部サポニン含量の季節的変動. *東京生薬協会会報* 474: 5-8,

学会発表等

松田 昂樹, 岩渕 久克, 伊藤 友彦, 芝野 真喜雄: 生薬の修治・炮製の科学的解明 -麻黄加熱処理時の煙による健康被害の解明-. 第4回薬用植物研究会研究総会, 11月(大阪)

古平 栄一, 飯塚 恵美, 尾崎 和男, 芝野 真喜雄: ジャノヒゲにおける根の膨大部形成過程の解明. 第4回薬用植物研究会研究総会, 11月(大阪)

藤田 浩基, 芝野 真喜雄, 尾崎 和男: スペインカンゾウ「新日本製薬 GG01」の品種登録. 第4回薬用植物研究会研究総会, 11月(大阪)

照井 正樹, 熊谷 和幸, 佐藤 博昭, 和田 浩志, 飯田 修, 加賀 亮司, 尾崎 和男, 芝野 真喜雄: 秋田県美郷町における甘草生産の試み ウラルカンゾウ (*Glycyrrhiza uralensis* Fischer) 実生株からの個体選抜. 第4回薬用植物研究会研究総会, 11月(大阪)

芝野 真喜雄, 松田 昂樹, 尾崎 和男: 種間雑種 (*G. uralensis* × *G. glabra*) C-18 系統の特性と化学的品質評価に関する研究. 第4回薬用植物研究会研究総会, 11月(大阪)

尾崎 和男, 松田 昂樹, 藤田 浩基, 草野 源次郎, 芝野 真喜雄 : 国内での甘草生産の試み ウラルカンゾウの系統間交配種の評価. 第 4 回薬用植物研究会研究総会, 11 月 (大阪)

石川 寛, 古村 あかり, 古平 栄一, 芝野 真喜雄 : ノイバラとテリハノイバラにおける **multiflorin A** に関するケモタイプの遺伝子型解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

松田 昂樹, 芝野 真喜雄 : 生薬の修治・炮製の科学的解明—麻黄と清炒麻黄の高極性成分の比較調査—. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

松田 昂樹, 岩淵 久克, 芝野 真喜雄 : 清炒麻黄・蜜炙麻黄の化学的品質に関する研究. 第 68 回日本生薬学会年会, 9 月 (Web)

臨床薬学教育研究センター

学術論文

Takuya Fujihara, Motohiko Sano, Yutaka Negoro, Shinji Yamashita, Hideya Kokubun, Ryoichi Yano. 2023. Fatigue in patients with cancer receiving outpatient chemotherapy: a prospective two-center study. *J Pharm Health Care Sci.* **9**:7, doi:10.1186/s40780-023-00275-0

Mai Otokubo, Kyoichi Wada, Megumi Ikura, Kotoka Hayase, Takaya Uno, Kazuki Nakagita, Naoki Hayakawa, Takuya Watanabe, Osamu Seguchi, Norihide Fukushima, Tsutomu Nakamura. 2022. Risk assessment of neutropenia during low-dose valganciclovir prophylaxis for heart transplant recipients. *Biol Pharm Bull.* **45**(4):452-459, doi: 10.1248/bpb.b21-00860

Mayako Uchida, Saeko Murata, Hanae Morikawa, Hiroko Yonemitsu, Shigeru Ishida, Kimitaka Suetsugu, Toshikazu Tsuji, Hiroyuki Watanabe, Takehiro Kawashiri, Koji Kato, Keiko Hosohata, Toshihiro Miyamoto, Nobuaki Egashira, Tsutomu Nakamura, Koichi Akashi, Ichiro Ieiri. 2022. Usefulness of medication guidance sheets for patients with non-Hodgkin's lymphoma receiving ESHAPA±R therapy. *Anticancer Res.* **42**(4):2053-2060, doi: 10.21873/anticancer.15686.

Mayako Uchida, Rika Kawai, Rie Hisamitsu, Sayaka Mai, Shigeru Ishida, Hiroyuki Watanabe, Takehiro Kawashiri, Koji Kato, Keiko Hosohata, Toshihiro Miyamoto, Nobuaki Egashira, Tsutomu Nakamura, Koichi Akashi, Ichiro Ieiri. 2022. Evaluation of medication instruction sheets for patients undergoing R-CHOP therapy in non-Hodgkin's lymphoma. *In vivo.* **36**(3):1461-1467, doi: 10.21873/in vivo.12852.

Hiroshi Hosoda, Tsutomu Nakamura, Fumiki Yoshihara. 2022. Plasma clearance of intravenously infused adrenomedullin in rats with acute renal failure. *Biomolecules* **12**(9):1281, doi: 10.3390/biom12091281.

Wakabayashi T, Nakatsuji T, Kambara H, Niinomi I, Oyama S, Inada A, Ueno S, Uchida M, Iwanaga K, Iida T, Hosohata K. 2022. Drug-induced Neuropsychiatric Adverse Events Using Post-Marketing Surveillance. *Curr Rev Clin Exp Pharmacol.* **17**(2):144-148, doi: 10.2174/1574884716666210215104540

Niinomi I, Oyama S, Inada A, Wakabayashi T, Hirai T, Kambara H, Iida T, Uchida M, Sano Y, Hosohata K. 2022. Adverse event profiles of drugs used for treatment of juvenile idiopathic arthritis according to spontaneous reporting system database. *Int J Clin Pharmacol Ther*. **60**: 402-407, PMID: 35924642

Hosohata K, Harnsirikarn T, Chokesuwattanaskul S. 2022. Ferroptosis: A potential therapeutic target in acute kidney injury. *Int J Mol Sci*. **23**: e6583, PMID: 35743026

Hata T, Hirata A, Ota R, Hosohata K, Nishihara M, Neo T, Katsumata T. 2022. Biologic disease-modifying and other anti-rheumatic drugs use in patients with moderate-to-severe juvenile idiopathic arthritis based on a Japanese nationwide claims database. *Ther Clin Risk Manag*. **18**:843-853, PMID: 36046102

Niinomi I, Oyama S, Inada A, Wakabayashi T, Iida T, Kambara H, Uchida M, Sano Y, Hosohata K. 2022. Current Status of Adverse Event Profile of Cyclosporine in Kidney, Stem Cell, and Heart Transplantations Using the Japanese Pharmacovigilance Database. *Cureus* **14(9)**:e29383, PMID: 36159360

Toshinori Hirai, Shun Ueda, Toru Ogura, Kan Katayama, Kaoru Dohi, Keiko Hosohata, Takahiko Aoyama, Yoshiaki Matsumoto, Takuya Iwamoto. 2023. Hyperkalemia by eplerenone or esaxerenone in the presence or absence of clarithromycin in hypertensive patients: a retrospective observational cohort study. *Journal of Hypertension* **41**:580-586, PMID: 36655800

Kanbayashi Y, Ishizuka Y, Shimizu M, Sawa S, Yabe K, Uchida M. 2022. Risk factors for opioid-induced constipation in cancer patients: a single-institution, retrospective analysis. *Support Care Cancer* **30(7)** :5831-5836, doi: 10.1007/s00520-022-07002-9. PMID: 35355120.

Kanbayashi Y, Sakaguchi K, Ishikawa T, Tabuchi Y, Takagi R, Yokota I, Katoh N, Takayama K, Taguchi T. 2022. Predictors of the development of nab-paclitaxel-induced peripheral neuropathy in breast cancer patients: post hoc analysis of a prospective, phase II, self-controlled clinical trial. *Med Oncol*. **39(10)**:153, doi: 10.1007/s12032-022-01754-4. PMID: 35852641.

Kanbayashi Y, Uchida M, Kashiwagi M, Akiba H, Shimizu T. 2022. Evaluation of lung toxicity with bevacizumab using the spontaneous reporting database. *Sci Rep*. **12(1)**:15619, doi: 10.1038/s41598-022-19887-x. PMID: 36114412.

Kanbayashi Y, Ishikawa T, Kuriu Y, Otsuji E, Takayama K. 2022. Predictors for development of oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in cancer patients as determined by ordered logistic regression analysis. *PLoS One* **17(9)**:e0275481. , doi: 10.1371/journal.pone.0275481. PMID: 36174022.

Kanbayashi Y, Uchida M, Kashiwagi M, Akiba H, Shimizu T. 2022. Evaluation of lung adverse events with trastuzumab using the Japanese pharmacovigilance database. *Med Oncol.* **39(12)**:219, doi: 10.1007/s12032-022-01805-w. PMID: 36175697.

Kanbayashi Y, Shimizu M, Ishizuka Y, Sawa S, Yabe K, Uchida M. 2022. Factors associated with non-response to naldemedine for opioid-induced constipation in cancer patients: A subgroup analysis. *PLoS One* **17(12)**:e0278823, doi: 10.1371/journal.pone.0278823. PMID: 36490241

Kanbayashi Y, Shimizu T, Anzai M, Kawai R, Uchida M. 2023. Evaluation of Cardiac Adverse Events with Nivolumab Using a Japanese Real-World Database. *Clin Drug Investig.* **43(3)**:177-184, doi: 10.1007/s40261-023-01246-x. PMID: 36780109.

総説

細畑 圭子, 松岡 裕之, 熊谷 悦子. 2022. 尿中バイオマーカーによる高齢者の腎機能低下予測とその予防. *Precision Medicine* **5**:77-82

細畑 圭子, 金 徳男, 高井 真司. 2022. 抗酸化防御機構に着目した水腎症の早期検出に向けた基礎研究. *Precision Medicine* **5**:82-86

細畑 圭子, 鷲野 聡, 宮川 友明, 金 徳男, 高井 真司. 2022. 水腎症の早期検出に向けたトランスレーショナルリサーチ. *Precision Medicine* **5**:57-63

細畑 圭子, 米山 弘樹, 金 徳男, 高井 真司, 宇佐美 吉英. 2022. 生体の酸化ストレス応答に着目した創薬展開. *Precision Medicine* **5**:49-54

細畑 圭子, 米山 弘樹, 金 徳男, 宇佐美 吉英, 高井 真司. 2022. 酸化ストレス制御機構を基盤とした腎疾患に対する創薬研究. *BIO Clinica* **37**:65-69

細畑 圭子, 金 徳男, 高井 真司. 2022. 腎虚血再灌流障害における酸化ストレス応答機構と上皮間葉転換の関与. *BIO Clinica* **37**:79-83

細畑 圭子, 金 徳男, 高井 真司. 2022. 急性腎障害からの繊維化進展における上皮間葉転換の役割. *Precision Medicine* **5**:86-90

細畑 圭子, 松岡 裕之, 熊谷 悦子. 2022. 高齢高血圧患者のスポット尿を用いた非侵襲性バイオマーカーの腎機能低下予測評価. *別冊 BIO Clinica* **11**:112-116

細畑 圭子, 神原 弘子, 岩永 一範. 2022. 大規模医薬品有害事象データベース解析に基づくプロトンポンプ阻害薬の安全性プロファイル. *Precision Medicine* **5**:52-55

細畑 圭子, 鷺野 聡, 宮川 友明, 金 徳男, 高井 真司. 2022. 腎繊維化形成機構の病態生理学的意義の解明と臨床展開. *Precision Medicine* **5**:68-74

細畑 圭子, 鷺野 聡, 宮川 友明, 金 徳男, 高井 真司. 2022. 尿路閉塞による腎障害の早期検出に向けた研究～基礎から臨床へ～. *BIO Clinica* **37**:77-83,

細畑 圭子, 三瀬名丹. 2023. 腎尿細管上皮細胞におけるエンドサイトーシスレセプターを介したカドミウム蓄積機構. *BIO Clinica* **38**:80-83

細畑 圭子. 2023. 新しい細胞死フェロトーシスと創薬ターゲットとしての可能性. *Precision Medicine* **6**:60-63

細畑 圭子. 2023. Glaucocalyxin A による腎障害軽減効果. *BIO Clinica* **38**:83-86

細畑 圭子. 2023. 腎毒性機構におけるエンドサイトーシスレセプターの生理学的意義. *Precision Medicine* **6**:66-70

細畑 圭子. 2023. リスク低減・回避に向けた大規模医薬品有害事象データベースを用いたキサンチンオキシダーゼ阻害薬の安全性情報解析. *BIO Clinica* **38**:43-46

細畑 圭子. 2023. 服薬アドヒアランス介入が降圧効果に与える影響～少数例での試み～. *Precision Medicine* **6**:65-67

松岡 裕之, 細畑 圭子. 2023. 新型コロナウイルス感染症抗原定性検査キットの利点と欠点. *BIO Clinica* **38**:57-61

著書

中村 敏明.. 検査値リスト. 治療薬ハンドブック2023 高久史磨 監修 堀正二 他編 じほう (東京) :

角山 香織, 津田 真弘. 2022. 循環器疾患の薬物一覧. 循環器疾患最新の治療 2022-2023 伊藤 博・山下 武志 編集 南江堂 (東京) :435-493

神林 祐子. 2022. 緩和医療・支持療法 49 がん疼痛. 薬剤師のための薬物療法問題集 家入一郎 監修 じほう (東京) :380-385

神林 祐子. 2022. II 各論 3 感覚器 C 末梢神経障害. 薬剤師の関わり JASCC がん支持療法テキストブック 田村和夫監修 金原出版 (東京) :165

神林 祐子. 2023. 22 鎮痛薬. Evidence Update 2023 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する 名郷 直樹 監修 南山堂 (東京) :126-129

栞原 健. 2022. 薬事関係法規・制度 解説 2022-23 年版、第1部 第1章 第6節 医療法、第2部 第1章 第3節 療養担当規則、第7節調剤報酬、診療報酬、介護報酬. 薬事関係法規・制度解説 薬事衛生研究会 編集 薬事日報 (東京) :49-71 368-383, 405-434

解説・プロシーディング・紀要・その他

神林 祐子, 石川 剛, 大辻 英吾, 高山 浩一. 2022. 高齢大腸がん患者における VEGF 阻害剤による蛋白尿発症の予測因子. 日本癌治療学会学術集会抄録集 60 回 :OWS9-7,

特許

細畑 圭子, 高井 真司, 米山 弘樹, 金 徳男, 宇佐美 吉英. Vanin-1 阻害剤, , 国際特許 PCT/JP2022/037384(PCT 出願), 大阪医科薬科大学

細畑 圭子, 高井 真司, 金 徳男, 西村 研吾, 井上 創太, 米田 圭三. 検体中の Vanin-1 タンパク質をイムノクロマトグラフィーにより測定する方法、及び検査器具, 特願 2022-177267, 大阪医科薬科大学・東洋紡株式会社

学会発表等

中野 晶帆, 角山 香織, 矢野 良一, 中村 敏明 : 医薬品・健康食品等の情報へのアクセスならびに信頼度に関する消費者の意識調査. 第 24 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 7 月 (Web)

宮里 義明, 矢野 良一, 角山 香織, 中村 敏明 : 高齢がん患者に対する抗悪性腫瘍薬の使用状況の解析. 第 5 回フレッシュャーズ・カンファランス, 6 月 (Web)

安倍 怜, 角山 香織, 中村 敏明 : 医療従事者等のフレイル予防に対する取り組みに関する文献調査 . 第 5 回フレッシュャーズ・カンファランス, 6 月 (Web)

中村 敏明 : シンポジウム「医薬品情報提供の個別最適化」. 第 16 回日本薬局学会学術総会, 11 月 (福岡)

中村 敏明, 中野 晶帆, 矢野 良一, 角山 香織 : 医薬品・健康食品等の情報入手に関する現状調査からみた薬剤師の役割. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

角山 香織, 中野 有央衣, 阪本 恭子, 矢野 良一, 駒澤 伸泰, 小林 道太郎, カルデナス 暁東, 中野 隆史, 永井 純也, 中村 敏明 : 授業アンケートに基づく「多職種連携論—医療倫理」演習の評価と今後の課題. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

中辻 結樹, 中村 任, 岩永 一範 : ドネペジルの溶解性におよぼす川芎茶調散の影響. 第 5 回フレッシュャーズ・カンファランス, 6 月 (Web)

川出 紗瑛, 岩永 一範, 角山 香織, 中村 敏明, 中蔵 伊知郎, 上野 智子, 中野 一也, 川端 一功, 中村 任 : ARB/Ca 拮抗薬配合錠処方歴と脳心血管イベント発症との連関解析. 医療薬学フォーラム 2022/第 30 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 7 月 (Web)

松岡 俊樹, 阪口 大地, 中村 任, 岩永 一範 : ドネペジルの紅茶中での溶解性に及ぼすテアフラビン類の影響. 医療薬学フォーラム 2022/第 30 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 7 月 (Web)

須藤 桃, 中山 賢, 岩永 一範, 中村 任 : グルコマンナン添加量の違いによる溶液中レボドパ濃度の評価. 第 72 回日本薬学会関西支部大会, 10 月 (大阪)

馬庭 朝香, 木村 隆介, 中村 任, 岩永 一範 : ポリオキシプロピレンメチルグルコシドによるアルブチンの皮膚浸透性増大効果のメカニズムに関する検討～皮膚脂質分配性への影響～. 第 72 回日本薬学会関西支部大会, 10 月 (大阪)

岩永 一範, 中辻 結樹, 中村 任 : 緑茶中カテキンとドネペジル間における複合体形成の可逆性に関する検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

駒澤 伸泰, 小林 道太郎, 角山 香織, カルデナス 暁東, 中村 敏明, 森 龍彦, 瀧谷 公隆, 阪本 恭子, 寺崎 文生, 鈴木 久美, 永井 純也, 中野 隆史 : 遠隔会議システムを活用した医療倫理に関する多職種連携教育の試み. 第 54 回 日本医学教育学会大会, 8 月 (高崎)

段林 正明, 津田 真弘, 岩内 大佑, 馬橋 美由季, 角山 香織, 塩田 有史, 高橋 一栄, 松本 乃里子 : 改訂モデル・コアカリキュラムで求められる臨床教育を実践しよう! ～実務実習生に何をどう伝えるかを考える～. 第 7 回 日本薬学教育学会, 8 月 (Web)

神林 祐子, 石川 剛, 大辻 英吾, 高山 浩一 : 高齢者に対する大腸がん治療の個別化を考える 高齢大腸がん患者における VEGF 阻害剤による蛋白尿発症の予測因子. 第 60 回癌治療学会, 10 月 (Web)

神林 祐子 : 薬剤師が知っておきたい緩和ケアの基礎知識 Basic セミナー 2. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023, 3 月 (名古屋)

神林 祐子, 阪口 晃一, 石川 剛, 田口 哲也, 高山 浩一 : 順序ロジスティック回帰分析による乳癌患者におけるパルボシクリブによる好中球減少症発症の予測因子の検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

神林 祐子 : 緩和ケアの基礎知識. 日本臨床腫瘍薬学会 (JASPO) スタートアップセミナー, 7 月 (Web)

衛生化学研究室

学術論文

Tachibana K, Kusumoto K, Ogawa M, Ando H, Shimizu T, Ishima Y, Ishida T, Okuhira K. . 2022. FTY720 Reduces Lipid Accumulation by Upregulating ABCA1 through Liver X Receptor and Sphingosine Kinase 2 Signaling in Macrophages. *Int J Mol Sci.* **23(23)**:14617, doi: 10.3390/ijms232314617

Azuma T, Nakano T, Koizumi R, Matsunaga N, Ohmagari N, Hayashi T. 2022. Evaluation of the Correspondence between the Concentration of Antimicrobials Entering Sewage Treatment Plant Influent and the Predicted Concentration of Antimicrobials Using Annual Sales, Shipping, and Prescriptions Data. *Antibiotics (Basel)* **11(4)**:472, doi: 10.3390/antibiotics11040472. PMID: 35453223

Azuma T, Uchiyama T, Zhang D, Usui M, Hayashi T. 2022. Distribution and Characteristics of Carbapenem-Resistant and Extended-Spectrum β -Lactamase (ESBL) Producing *Escherichia coli* in Hospital Effluents, Sewage Treatment Plants, and River Water in an Urban Area of Japan. *Sci Total Environ.* **839**:156232, doi: 10.1016/j.scitotenv.2022.156232

Azuma T, Katagiri M, Sekizuka T, Kuroda M, Watanabe M. 2022. Inactivation of Bacteria and Residual Antimicrobials in Hospital Wastewater by Ozone Treatment. *Antibiotics (Basel)* **11(7)**:862, doi: 10.3390/antibiotics11070862. PMID: 35884116

Azuma T, Murakami M, Sonoda Y, Ozaki A, Hayashi T. 2022. Occurrence and Quantitative Microbial Risk Assessment of Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) in a Sub-Catchment of the Yodo River Basin, Japan. *Antibiotics (Basel)* **11(10)**:1355, doi: 10.3390/antibiotics11101355. PMID: 36290013

解説・プロシーディング・紀要・その他

東 剛志. 2022. オゾンを用いた病院排水中の残留抗菌薬及び薬剤耐性菌の処理法の開発研究. *オゾンニュース* **123**:3-8,

学会発表等

Maki Tsujita, Hiroshi Takase, Keito Furuie, Motonari Tsubaki, Keiichiro Okuhira, Frank J Gonzalez, Natsuko Kumamoto, Shinya Ugawa : The magnetic field treated wild-type mice, and in untreated Abca1-null mice reduced the adult-neurogenesis at the hippocampal dentate gyrus. ABC2023 - 9th FEBS Special Meeting ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins: From Multidrug Resistance to Genetic Diseases, 2 月 (Innsbruck, Austria)

立花 洸季, 楠本 嵩志, 前橋 梨花, 樹山 友絵, 永尾 綾菜, 辻田 麻紀, 異島 優, 石田 竜弘, 奥平 桂一郎 : ApoA-1 binding protein の加齢に伴う血清中濃度の変化およびその抗炎症作用. フォーラム 2022 衛生薬学・環境トキシコロジー, 8 月 (熊本)

立花 洸季, 楠本 嵩志, 前橋 梨花, 樹山 友絵, 永尾 綾菜, 辻田 麻紀, 異島 優, 石田 竜弘, 奥平 桂一郎 : 抗炎症タンパク質 ApoA-1 binding protein の加齢に伴う血清中濃度の変化. 第 95 回日本生化学会大会, 11 月 (名古屋)

外村 奈々, 奥平 桂一郎, 尾崎 恵一 : 多剤耐性慢性骨髄性白血病細胞の各種 HDAC 阻害剤に対する感受性とその耐性克服. 第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 6 月 (金沢)

楠本 嵩志, 佐々木 澄美, 立花 洸季, 橋本 蒼太, 山口 絢香, 小川 真奈加, 石原 理沙, 吉田 徳幸, 井上 貴雄, 奥平 桂一郎 : 線虫における核酸トランスポーターSID-1 のヒト相同分子の解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

服部 菜々美, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎 : Sulforaphane は PRDM16 経路を介して白色脂肪細胞のベージュ化を誘導する. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

奥平 桂一郎 : 動脈硬化抑制因子の機能研究. 神戸薬科大学 特別研究セミナー,

片桐 美和, 黒田 誠, 関塚 剛史, 東 剛志, 渡邊 学 : オゾンマイクロバブル処理による病院汚水の薬剤耐性菌、残留抗菌薬の低減. 第 70 回日本化学療法学会総会, 6 月 (岐阜)

東 剛志 : 医療排水中における医薬品の存在及び処理法に関する研究. フォーラム 2022 衛生薬学・環境トキシコロジー, 8 月 (熊本)

東 剛志 : 環境水・医療排水中の抗菌薬及び薬剤耐性菌の実態と不活化法の開発. 第 61 回獣疫学会学術集会, 3 月 (東京)

感染制御学研究室

学術論文

Sakon N, Takahashi T, Yoshida T, Shirai T, Komano J. 2022. Impact of COVID-19 Countermeasures on Pediatric Infections. *Microorganisms* **10**:1947, PMID:36296222/DOI:10.3390/microorganisms10101947

学会発表等

富田 智称, 栗田 芳樹, 濱 みなみ, 中村 友寿, 八木 真裕子, Peter Gee, 堀田 秋津, 駒野 淳 : 新規 RNP 導入法 NanoMEDIC による Cas9/gRNA 送達の有用性に関する研究. 第 7 回日本ゲノム編集学会, 6 月 (Web)

富田 智称, 栗田 芳樹, 濱 みなみ, 中村 友寿, 八木 真裕子, Peter Gee, 堀田 秋津, 駒野 淳 : 遺伝子編集における新規 RNP 導入法 NanoMEDIC の有用性に関する研究. がん予防学術大会, 7 月 (京都)

佐倉 彩佳音, 矢倉 裕輝, 藤原 綾乃, 松本 絵梨奈, 駒野 淳, 渡邊 大 : 日本人 HIV-1 感染症患者におけるピクテグラビル投与に伴う血清クレアチニン値の上昇と腎尿細管トランスポーターの遺伝子多型の関連. 近畿エイズ学会, 6 月 (奈良)

八木 真裕子, 一井 沙耶香, 濱 みなみ, 中嶋 友里江, 上林 大起, 倉田 貴子, 遊佐 宏介, 駒野 淳 : 風疹ウイルス持続感染における Sphingomyelin synthase 1 (SGMS1)の役割について. 第 45 回日本分子生物学会, 11 月 (幕張)

阪野 文哉, 川畑 拓也, 渡邊 大, 塩野 徳史, 西田 明子, 朝来 駿一, 澤田 暁宏, 西岡 弘晶, 荒川 創一, 大森 亮介, 駒野 淳, 森 治代, 本村 和嗣 : MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン (2021 年度実績報告) . 第 36 回日本エイズ学会学術集会, 11 月 (浜松)

左近 直美, 高橋 知子, 駒野 淳 : COVID-19 に対する感染症対策が小児感染症に与えた影響. 第 92 回日本感染症学会, 11 月 (長崎)

鷺坂 祐作, 南 健太, 鈴木 陽一, 浮村 聡, 中野 隆史, 駒野 淳 : 全国 7 医療施設で分離された *C. difficile* の POT 型を利用した分子疫学的解析. 第 52 回日本嫌気性感染症学会, 3 月 (富山)

藤田 薫, 久利 歩, 一井 沙耶香, 八木 真裕子, 駒野 淳 : 風疹ウイルス Capsid タンパク質によるオートファジー誘導. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

鷺坂 祐作, 南 健太, 鈴木 陽一, 浮村 聡, 中野 隆史, 駒野 淳 : 下水サーベイランスにて得られた *Clostridioides difficile* 環境分離株の分子疫学的検討. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

杉村 陽菜, 鍛冶 杏果, 須田 麻友, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 駒野 淳, 辻坊 裕 : *Vibrio vulnificus* の致死性毒素 RtxA1 毒素の細胞死誘導ドメインの解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

畠山 友花, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 駒野 淳, 辻坊 裕 : *Acinetobacter baumannii* による肺炎モデルマウスの浸潤細胞の解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

宮本 勝城 : 鉄を標的とした新規感染症治療薬の開発. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

稲田 裕明, 谷口 菜優, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 駒野 淳, 良原 栄策, 辻坊 裕. : Bam 複合体を標的とした多剤耐性アシネトバクターに対する新規抗菌物質の開発. 第 96 回日本細菌学会総会, 3 月 (姫路)

生体機能解析学研究室

学術論文

Tsutsumi G, Kuroki C, Kamei K, Kusuda M, Nakazawa M, Sakamoto T, Ishikawa M, Harada S, Kobayashi H, Ouchi K, Inatomi S, Sakaguchi M, Iwamoto T, Ueda M. 2022. Novel acid trehalase belonging to glycoside hydrolase family 37 from *Pleurotus* sp.: cloning, expression and characterization. *Mycoscience* **63**:284-292, doi: 10.47371/mycosci.2022.09.001

学会発表等

堂本 若葉, 石黒 日向, 山口 雄矢, 今 海斗, 澤田 茜, 天野 祐美, 田中 智, 坂口 実 : 神経芽腫細胞の S 期におけるプロリルオリゴペプチダーゼとの相互作用を介した GAPDH の核内移行. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

吉田 彩莉, 西川 友萌, 川口 楓, 田中 智, 坂口 実 : ヒト網膜芽腫細胞の増殖におけるプロリルオリゴペプチダーゼの役割. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

生化学研究室

学術論文

Liu D, Li J, Lin H, Lorsung E, Le N, Singla R, Mishra A, Fukunaga R, Cao R. 2022. Circadian activities of the brain MNK - eIF4E signalling axis contribute to diurnal rhythms of some cognitive functions. *Eur J Neurosci.* **56**:3553-3569, doi: 10.1111/ejn.15678

Manne BK, Campbell RA, Bhatlekar S, Ajanel A, Denorme F, Portier I, Middleton EA, Tolley ND, Kosaka Y, Montenont E, Guo L, Rowley JW, Bray PF, Jacob S, Fukunaga R, Proud C, Weyrich AS, Rondina MT. 2022. MAPK-interacting kinase 1 regulates platelet production, activation, and thrombosis. *Blood* **140**:2477-2489, doi: 10.1182/blood.2022015568.

Erdenebaatar P, Gunarta IK, Suzuki R, Odongoo R, Fujii T, Fukunaga R, Kanemaki MT, Yoshioka K. 2023. Redundant roles of extra-cellular signal-regulated kinase (ERK) 1 and 2 in the G1-S transition and etoposide-induced G2/M checkpoint in HCT116 cells. *Drug Discov Ther.* **17**:10-17, DOI: 10.5582/ddt.2022.01120

Dong L, Muramatsu N, Numata H, Ito C. 2022. Functional Analysis of a Juvenile Hormone Inducible Transcription Factor, Krüppel homolog 1, in the Bean Bug, *Riptortus pedestris*. *Zoolog Sci.* **39**(6):562–569, doi:10.2108/zs220025

学会発表等

伊藤 千紘, 中村 菜乃花, 横田 のぞみ, 藤井 忍, 藤井 俊裕, 福永 理己郎 : SAPK 遺伝子の網羅的多重ノックアウト HeLa 細胞を用いたシグナル経路の解析. 第 68 回日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (滋賀)

和辻 佑美子, 松田 滯, 窪田 早希, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 伊藤 千紘, 福永 理己郎 : HeLa 細胞における Mnk1 および Mnk2 に対する各種阻害剤の阻害特性の解析. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

伊藤 千紘, 浅木 誠, 戸嶋 義樹, 鷹屋 優希, 吉川 葵, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 福永 理己郎 : MAPKAP キナーゼファミリー遺伝子の網羅的および単独残存型ノックアウト HeLa 細胞を用いたシグナル経路の解析. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

薬品物理化学研究室

学術論文

Ul Karim MR, Fukaya K, In Y, Sharma AR, Harunari E, Oku N, Urabe D, Trianto A, Igarashi Y. 2022. Marinoquinolones and Marinobactaic Acid: Antimicrobial and Cytotoxic ortho-Dialkylbenzene-Class Metabolites Produced by a Marine Obligate Gammaproteobacterium of the Genus Marinobacterium. *J Nat Prod.* **85(7)**: 1763–1770, doi:10.1021/acs.jnatprod.2c00281

Zhang Z, In Y, Fukaya K, Yang T, Harunari E, Urabe D, Imada C, Oku N, Igarashi Y.. 2022. Kumemicinones A–G, Cytotoxic Angucyclinones from a Deep Sea- Derived Actinomycete of the Genus Actinomadura. *J Nat Prod.* **85(4)**:1098–1108, doi:10.1021/acs.jnatprod.1c01205

学会発表等

槌田 智裕, 小橋川 栞愛, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 箕浦 克彦, 尹 康子, 谷口 泰造, 友尾 幸司 : 抗 Tau 抗体 Tau2r3 が有する Tau 分子中 VQIINK 配列特異的認識機構に関する研究. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

機能分子創製化学研究室

著書

和田 俊一, 林 淳祐, 浦田 秀仁, 谷口 高平. 2023. 第7章 第6節 Aib 含有ペプチド性キャリアによる核酸医薬の細胞内移送技術. *新規モダリティ医薬品のための新しいDDS 技術と製剤化* 技術情報協会 :410-416, ISBN : 978-4-86104-936-1

学会発表等

林 淳祐, 杉本 紀人, 穂積 慧美, 村田 春菜, 和田 俊一, 和田 郁人, 斯波 真理子, 浦田 秀仁 : PS 修飾 LNA ギャップマーの gap 領域部分 PO 構造がノックダウン活性に与える影響 . 日本核酸医薬学会 第7回年会, 7月 (東京)

杉本 紀人, 林 淳祐, 大谷 昌成, 和田 俊一, 浦田 秀仁 : 五員環ジスルフィドを含むホスホトリエステル修飾核酸の合成. 第72回日本薬学会関西支部総会・大会, 10月 (大阪)

下田 拓海, 和田 俊一, 林 淳祐, 浦田 秀仁 : 細胞膜透過性ペプチド MAP(Aib) の Arg 置換体の合成と siRNA の細胞内デリバリー効果. 第72回日本薬学会関西支部総会・大会, 10月 (大阪)

寺西 洸稀, 和田 俊一, 林 淳祐, 浦田 秀仁 : 細胞膜透過性ペプチド-5-アミノレブリン酸複合体の合成. 第72回日本薬学会関西支部総会・大会, 10月 (大阪)

浦田 秀仁 : 大阪医科薬科大学 薬学部における学生生活支援の実践. 第18回 医工薬連環科学教育研究機構シンポジウム, 1月 (大阪)

和田 俊一, 下田 拓海, 林 淳祐, 浦田 秀仁 : MAP(Aib)の Arg 置換による siRNA 細胞内デリバリーへの影響. 日本薬学会第143年会, 3月 (札幌)

林 淳祐, 越智 洋輔, 和田 俊一, 和田 郁人, 斯波 真理子, 浦田 秀仁 : ヌクレアーゼ抵抗性改善を目指した部分修飾 ApoB 標的プロドラッグ型 siRNA の設計. 日本薬学会第143年会, 3月 (札幌)

医薬分子化学研究室

学術論文

R. Kanehara, K. Tanaka, T. Yamada, H. Koshino, M. Hashimoto. 2023. Termination of the Chirality Confusion of Peribysins. *Bull Chem Soc Jpn.* **96(4)**:318–320, doi:10.1246/bcsj.20230025

Kikuchi T, Anami D, Morikawa S, Nakagawa Y, Yamada T, Li W, Hirano T. 2023. Secoergostane- and ergostane-type steroids from *Pleurotus cornucopiae* var. *citrinopileatus*. *Phytochemistry* **206**:113552, doi:10.1016/j.phytochem.2022.113552

A. Nagatomo, K. Ninomiya, S. Marumoto, C. Sakai, S. Watanabe, W. Ishikawa, Y. Manse, T. Kikuchi, T. Yamada, R. Tanaka, O. Muraoka, T. Morikawa. 2022. A Gedunin-Type Limonoid, 7-Deacetoxy-7-Oxogedunin, from *Andiroba* (*Carapa guianensis* Aublet) Reduced Intracellular Triglyceride Content and Enhanced Autophagy in HepG2 Cells. *Int J Mol Sci.* **23**:13141, doi:10.3390/ijms232113141

D. Yasuda, I. Yoshida, R. Imamura, D. Katagishi, K. Takahashi, H. Kojima, T. Okabe, Y. Ichimura, M. Komatsu, T. Mashino, T. Ohe. 2022. Development of p62-Keap1 Protein-Protein Interaction Inhibitors as Doxorubicin-Sensitizers Against Non-Small Cell Lung Cancer. *Results in Chemistry* **4**:100609, doi:10.1016/j.rechem.2022.100609

総説

平野 智也, 横尾 英知, 影近 弘之. 2022. 蛍光性天然物を基にした新規蛍光物質の創製. *有機合成化学協会誌* **80**:922-929,

著書

平野 智也. . 8 章 中枢神経系薬、第 11 章気管支喘息薬. *創薬科学・医薬化学 (第 2 版)*
橘高 敦史 編 *化学同人(京都府)* :154-176, 212-224

山田 剛司. 2022. 第 1 章 電磁波分析法 8.核磁気共鳴スペクトル測定法 . *よくわかる薬学機器分析* 藤岡 稔大 編集 廣川書店 (東京都) :82-121, 180-197, 444-453

解説・プロシーディング・紀要・その他

清川 慎介, 安田 大輔, 生長 幸之助. 2022. 新たな機能性分子を合成する手法“クリックケミストリー”— 2022 年ノーベル化学賞によせて . *医学のあゆみ* **283(13)**:1173-1175,

学会発表等

安田 大輔, 磯野 真理子, 加藤 大輝, 影近 弘之, 平野 智也 : 過酸化水素存在下で生理活性物質を放出す ケージド化合物の創成. 日本酸化ストレス学会第 75 回学術集会, 5 月 (Web)

北川 星来, 岡 優希 , 安田 大輔, 上川 拓也, 影近 弘之, 平野 智也 : N1-メチルアデノシンを検出する蛍光センサーの開発. 日本ケミカルバイオロジー学会第 16 回年会, 5 月 (富山)

北川 星来, 岡 優希 , 安田 大輔, 上川 拓也, 影近 弘之, 平野 智也 : 有機化学反応に基づく N1-メチルアデノシンの蛍光検出法の開発. 第 44 回日本光医学・光生物学会, 6 月 (東京)

安田 大輔, 中嶋 祐介, 笹井 美花, 東田 岳都, 峰晴 満帆, 加藤 大輝, 影近 弘之, 平野 智也 : クマリン骨格を有する pH 応答型ケージド化合物の合成と光分解特性 . 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

坂野 翼, 星野 匡彦, 柴崎 紀子, 安原 徳子, 平野 智也, 影近 弘之, 大崎 愛弓 : *Tetradium ruticarpum* および *Quassia amara* 由来の蛍光を有するアルカロイドの探索. 第 66 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 11 月 (沖縄)

湊 沙璃, 菊地 崇, 大月 興春, 山田 剛司, 平野 智也, 李 巍 : タモギタケ子実体の開裂型ステロイドに関する成分研究. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

岡 優希, 北川 星来, 竹信 慶乃, 高絢 一果, 安田 大輔, 上川 拓也, 影近 弘之, 大江 知之, 平野 智也 : N1-メチルアデノシンを検出する蛍光センサーの構造最適化に関する研究 . 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

安田 大輔, 片岸 大紀, 大江 知之, 平野 智也 : ナフタレン-2-アセトアミド誘導体の細胞内 Nr1f2 活性化効果 . 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

橋本 勝, 金原 龍飛, 山田 剛司, 越野 広雪, 田中 和明 : Peribysin 類絶対配置混乱の収束.
日本農芸化学会 2023 年度大会, 3 月 (広島)

長友 暁史, 二宮 清文, 丸本 真輔, 酒井 千恵, 渡邊 秀太, 石川 和奏, 萬瀬 貴昭, 菊池 崇, 山田 剛司, 田中 麗子, 村岡 修, 森川 敏生 : アンディローバ (*Carapa guianensis*) 由来 gedunin 型リモノイド 7-deacetoxy-7-oxogedunin の脂質代謝改善作用および作用機序解析.
日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

山田 剛司 : 5-FU を超える海洋生物由来真菌の産生する抗がん剤シーズ. 関西バイオビジネスマッチング, 1 月 (Web)

安田 大輔, 片岸 大紀, 中村 健人, 小峰 美紗子, 大江 知之 : Keap1-Nrf2 タンパク質間相互作用阻害剤による細胞内 Nrf2 活性化効果 . 日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会, 5 月 (富山)

有機薬化学研究室

学術論文

Yoneyama H, Hosohata K, Jin D, Yoshida I, Toyoda M, Kitamura I, Takai S, Usami Y. 2022. Design, synthesis, and evaluation of new vanin-1 inhibitors based on RR6. *Bioorg Med Chem.* **65**:116791, DOI:10.1016/j.bmc.2022.116791

Usami Y, Mizobuchi Y, Ijuin M, Yamada T, Morita M, Mizuki K, Yoneyama H, Harusawa S. 2022. Synthesis of 6-Halo-Substituted Pericosine A and an Evaluation of Their Antitumor and Antiglycosidase Activities. *Mar Drugs* **20(7)**:438, DOI:10.3390/md20070438

Uemura M, Hiramoto K, Yoneyama H, Harusawa S, Komeda S. 2022. Introduction of Fluorine into Antitumor-Active Dinuclear Platinum(II) Complexes Leads to Modulation of In Vivo Antitumor Activity in Mice. *Inorg Chem.* 2022 **61(31)**:12155–12164, DOI:10.1021/acs.inorgchem.2c01126

Usami Y, Nakamura K, Mizobuchi Y, Mizuki K, Harusawa S, Yoneyama H, Yamada T. 2022. Enantiomeric composition of natural pericosine A derived from *Periconia byssoides* and α -glycosidase inhibitory activity of (–)-enantiomer. *Chirality* **34(10)**:1320–1327, DOI:10.1002/chir.23491

Hiroki Yoneyama, Mano Adachi, Aoshi Morita, Maki Nakagawa, Miho Baba, Kanako Yamawaki, Noboru Hayama, Shinya Harusawa, Yoshihide Usami. 2023. Synthesis of 5,6-Dihydro-4 H -pyrrolo[1,2- b]pyrazoles and Homologs from 5-Substituted 2-(Alkynyl)tetrazoles via Microwave-Induced Intramolecular Nitrile-Imine-Alkyne 1,3-Dipolar Cycloaddition. *Synthesis* **55(06)**:945–958, DOI:10.1055/a-1961-8504

学会発表等

S. Komeda, K. Hiramoto, M. Uemura, H. Yoneyama, Y. Usami, S. Harusawa : Antitumor and immunostimulatory activities of the tetrazolato-bridged dinuclear Pt(II) complexes. 10th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference, 11 月 (神戸)

若山 実希, 米山 弘樹, 植村 雅子, 宇佐美 吉英, 米田 誠治 : 末端アルキンを導入したアゾラト架橋白金(II)二核錯体の合成. 第 68 回日本薬学会東海支部総会・大会, 7 月 (愛知)
細畑 圭子, 米山 弘樹, 金 徳男, 吉田 彩葉, 宇佐美 吉英, 高井 真司 : 新規 vanin-1 阻害剤の合成および活性評価. 第 27 回病態プロテアーゼ学会学術集会, 8 月 (愛媛)

堀山 志朱代, 葉山 登, 米山弘樹, 宇佐美 吉英, 萩中 淳 : ヒト血清中のアビラテロンおよびその代謝物の分析における未知代謝物の解析 . 第 34 回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2022) , 9 月 (船橋)

米山 弘樹, 足立 茉望, 森田 蒼, 中川 真稀, 馬場 美帆, 山脇 加名子, 葉山 登, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英 : 2,5-二置換テトラゾールからピラゾール融合環の合成: マイクロウェーブによるニトリルイミンとアルキンとの 分子内環化付加反応 . 第 51 回複素環化学討論会, 9 月 (大阪)

葉山 登, 新郷 涼太, 田中 彩夏, 三浦 夏帆, 米山 弘樹, 竹本 佳司, 宇佐美 吉英 : 多機能性ボロン酸触媒を用いた不斉アザマイケル反応における立体因子の評価. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

永井 陽帆, 若森 美路, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英 : (-)-シキミ酸を出発物質とする非天然型 (-)-lincitol A の合成研究. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

吉田 彩葉, 豊田 美唯, 北村 育子, 米山 弘樹, 細畑 圭子, 金 徳男, 高井 真司, 葉山 登, 宇佐美 吉英 : Vanin-1 阻害作用を有する新規パンテテイン誘導体の開発とその評価. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (大阪)

葉山 登, 新郷 涼太, 田中 彩夏, 三浦 夏帆, 米山 弘樹, 竹本 佳司, 宇佐美 吉英 : 高光学純度 β -アミノ酸を合成する触媒的不斉アザマイケル反応の研究. 第 48 回反応と合成の進歩シンポジウム, 11 月 (千葉)

細畑 圭子, 米山 弘樹, 金 徳男, 宇佐美 吉英, 高井 真司 : 新規パンテテイン誘導体の合成および活性評価. 第 96 回日本薬理学会年会, 11 月 (横浜)

細畑 圭子, 米山 弘樹, 金 徳男, 宇佐美 吉英, 高井 真司 : Vanin-1 阻害を有する新規 pantetheine 誘導体の合成および活性評価. 第 32 回日本循環薬理学会, 1 月 (東京)

宮本 京香, 新子 紗矢, 野村 有佐, 植沢 芳広, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英 : 塩素以外のハロゲンを含むペリコシン E 類縁体の合成への試み. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

葉山 登, 堀山 志朱代, 西 由紀菜, 矢田 麻奈衣, 米山 弘樹, 萩中 淳, 宇佐美 吉英 : アビラテロンの未知代謝物の同定解析. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

山脇 加名子, 米山 弘樹, 葉山 登, 宇佐美 吉英 : リボース由来のピロロピラゾール-イミノシュガー合成と α -グルコシダーゼ阻害活性. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

若山 実希, 米山 弘樹, 植村 雅子, 宇佐美 吉英, 米田 誠治 : 末端アルキンを導入したテトラゾラト架橋白金(II)二核錯体の合成と細胞毒性. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

生薬科学研究室

学術論文

Y. Murakami, S. Azuma, K. Baba, M. Taniguchi, F. Furukawa. 2022. Activation of proteinase-activated receptor-2 (PAR-2) simultaneously induces interleukin 8 (IL-8) and suppresses monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) in HaCaT cells. *Trends in Immunotherapy* **6(1)**:41-49, doi:10.24294/ti.v6.i1.1472

Y. Hirata, H. Nishino, T. Sasaki, Y. Nagaoka, S. Uesato, M. Taniguchi. 2022. Sirtuin inhibition and neurite outgrowth effect as new biological activities for Areca catechu nut alkaloids. *Phytomedicine Plus* **2(3)**:100294, <https://doi.org/10.1016/j.phyplu.2022.100294>

Yan H, Sasaki T, Kanki H, Hirata Y, Nishiyama K, Hisada S, Matsumura S, Nagaoka Y, Sumiyoshi T, Nagano S, Nakata A, Yoshida M, Uesato S, Mochizuki H. 2022. MDMX elevation by a novel Mdmx-p53 interaction inhibitor mitigates neuronal damage after ischemic stroke. *Sci Rep*. **12(1)**:21110, DOI: 10.1038/s41598-022-25427-4

Tawarayama H, Hirata Y, Uchida K, Himori N, Uesato S, Nakazawa T. 2022. Isozyme-specific histone deacetylase 1/2 inhibitor K560 attenuates oxidative stress-induced retinal cell death. *Neurosci Lett*. **793**:138978, DOI: 10.1016/j.neulet.2022.136978

総説

N. Ohkura, M. Taniguchi, K. Oishi, K. Inoue, M. Ohta. 2022. Angelica keiskei (Ashitaba) has potential as an antithrombotic health food. *Food Research* **6(2)**:18-24, [https://doi.org/10.26656/fr.2017.6\(2\).121](https://doi.org/10.26656/fr.2017.6(2).121)

学会発表等

平田 佳之, 浅田 耀平, 山口 耕介, 佐々木 勉, 長岡 康夫, 上里 新一, 谷口 雅彦 : ニガキ由来アルカロイドの rotenone 誘発性 SHSY5Y 細胞死に対する細胞保護効果. 日本生薬学会 第 68 回年会, 9 月 (愛媛)

村上 能庸 , 吾妻 正章 , 馬場 きみ江 , 谷口 雅彦 , 古川 福実 : 柑橘ジャバラ果皮成分による黄色ブドウ球菌細胞壁成分誘導性炎症反応の抑制. 日本生薬学会第 68 回年会, 9 月 (愛媛)

平田 佳之, 忍穂 陽介, 谷口 雅彦 : 高槻市北部に自生する野生モモの調査並びに薬用資源としての可能性について. 薬用植物栽培研究会第 4 回研究総会, 11 月 (大阪)

平田 佳之, 宇藤 春香, 谷口 雅彦 : 酸棗仁に含まれるアポルフィナルカロイドの成分探索. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

村上 能庸, 鳶 幸生, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦, 古川 福実 : オゾン水による黄色ブドウ球菌由来有害物質の失活. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

分子構造化学研究室

学術論文

Asano A, Minoura K, Yamada T, Doi M. 2023. Experimental evidence for CH...p interaction-mediated stabilization of the square form in phenylglycine-incorporated ascidiacyclamide. *RSC Adv.* **13(4)**:2458-2466, doi:10.1039/d2ra07063d.

A. Asano, M. Sakata, T. Kato, M. Doi. 2023. Puckering of 4-Fluoro-L-proline Isomers and 4,4-Difluoro-L-proline Influencing Conformation of Ornithine-free Gramicidin S. *Chem Lett.* **52(4)**:246-248, doi:10.1246/cl.230063.

Kato T, Numa H, Nakamachi M, Asano A, Doi M. 2022. Effects of Substituting Disubstituted Amino Acids into the Amphipathic Cell Penetrating Peptide Pep-1. *Chem Pharm Bull.* **70(11)**:812-817, doi:10.1248/cpb.c22-00472

Yokoo H, Misawa T, Kato T, Tanaka M, Demizu Y, Oba M. 2022. Development of delivery carriers for plasmid DNA by conjugation of a helical template to oligoarginine. *Bioorg Med Chem.* **72**:116997, doi:10.1016/j.bmc.2022.116997

著書

T. Kato. 2022. Chapter 7. Foldamer. *Cell-Penetrating Peptides: Design, Development and Applications* M. Oba and Y. Demiz 編集, Wiley-VCH (Weinheim) :79-107,,
Doi:10.1002/9783527835997

学会発表等

河合 未夢, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢 : リジンとロイシンからなる両親媒性ペプチドの脂質二重膜に対する影響の評価. 第 72 回日本薬学会関西支部大会, 10 月 (枚方)

T. Kato, R. Yamada, A. Matsuoka, A. Asano, M. Doi : Evaluation of the Effect of Amphipathic Helical Peptides on Lipid Membranes. 第 59 回ペプチド討論会, 10 月 (仙台)

加藤 巧馬, 出水 庸介, 田中 正一, 浅野 晶子, 土井 光暢 : ロイシンとジ置換アミノ酸のヘテロペプチドにおけるジ置換アミノ酸の種類によるペプチド二次構造への影響評価. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

S. Kakazu, A. Ueda, Y. Makura, T. Kato, M. Doi, M. Oba, M. Tanaka : Effect of α -position stereochemistries of acyclic α,α -disubstituted α -amino acids for hydrocarbon-stapling of peptides. 第 59 回ペプチド討論会, 10 月 (仙台)

K. Ikegami, Y. Koba, A. Ueda, M. Oba, T. Kato, M. Doi, M. Tanaka : Conformational analysis of chiral three-membered ring α,α -disubstituted α -amino acid-containing α -aminoisobutyric acid-based peptides. 第 59 回ペプチド討論会, 10 月 (仙台)

H. Yokoo, T. Misawa, T. Kato, M. Tanaka, Y. Demizu, M. Oba : Intracellular plasmid DNA delivery using helical template conjugated oligoarginine. 第 59 回ペプチド討論会, 10 月 (仙台)

真倉 唯, 上田 篤志, 嘉数 沙奈, 加藤 巧馬, 梅野 智大, 平山 和浩, 土井 光信, 大庭 誠, 田中 正一 : ペプチド側鎖における E 選択的閉環メタセシス反応の開発. 第 39 回日本薬学会九州山口支部大会, 11 月 (佐世保)

西岡 良真, 梅野 智大, 土井 光暢, 加藤 巧馬, 上田 篤志, 大庭 誠, 田中 正一 : ヘリカルペプチド型ホスフィン配位子を用いた不斉[3+2]付加環化反応. 第 39 回日本薬学会九州山口支部大会, 11 月 (佐世保)

佐藤 和樹, 梅野 智大, 上田 篤志, 土井 光暢, 加藤 巧馬, 田中 正一 : N末を修飾したヘリカルペプチド触媒による不斉反応. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

松田 拳, 上田 篤志, 真倉 唯, 井吉 彬太, 加藤 巧馬, 松本 卓, 土井 光暢, 田中 正一 : 五員環状ジ置換アミノ酸を用いた架橋形成によるペプチド二次構造の制御., 3 月 (札幌)

薬学教育推進センター

学会発表等

竹本 夏穂, 宮崎 誠, 倉田 里穂, 長谷井 友尋, 佐藤 卓史, 井上 晴嗣, 大桃 善朗 : 演習課題の提出時刻から見た学生の学習スタイルと成績との関係. 第7回日本薬学教育学会, 8月 (東京)

薬学研究支援センター

学術論文

Kapoor MP, Moriwaki M, Minoura K, Timm D, Abe A, Kito K. 2022. Structural Investigation of Hesperetin-7-O-Glucoside Inclusion Complex with β -Cyclodextrin: A Spectroscopic Assessment. *molecules* **27**(17):5395, doi.org/10.3390/molecules27175395

解説・プロシーディング・紀要・その他

Mihoyo Fujitake and Shinya Harusawa. 2023. Accurate Molecular Weight Measurements of Cystine Derivatives on FAB-MS. *大阪医科薬科大学薬学部雑誌* **2**:105-116,

学会発表等

槌田 智裕, 小橋川 栞愛, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 箕浦 克彦, 尹 康子, 谷口 泰造, 友尾 幸司 : 抗 Tau 抗体 Tau2r3 が有する Tau 分子中 VQIINK 配列特異的認識機構に関する研究. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

山沖 留美, 木村 捷二郎 : 生薬含有丸剤の崩壊性における電子線照射の影響. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

自然科学グループ

学術論文

Chikako Ishizuka, Hiroki Takemoto, Yohei Chiba, Akira Ono, and Naoyuki Itagaki. 2022. Role of tensor interaction as salvation of cluster structure in ^{44}Ti . *Phys Rev C* **105**:064314, 10.1103/PhysRevC.105.064314

Niu Wan, Takayuki Myo, Hiroki Takemoto, Hiroshi Toki, Chang Xu, Hisashi Horiuchi, Masahiro Isaka, Mengjiao Lyu, and Qing Zhao. 2022. Finite particle-number description of symmetric nuclear matter with spin excitations of high-momentum pairs induced by the tensor force. *Phys Rev C* **106**:034308, 10.1103/PhysRevC.106.034308

Masahiro Isaka, Qing Zhao, Takayuki Myo, Mengjiao Lyu, Hiroshi Toki, Hisashi Horiuchi, Hiroki Takemoto, and Niu Wan. 2022. Role of spatially compact nucleon wave packets in an ab initio description of ^3H within high-momentum antisymmetrized molecular dynamics. *Phys Rev C* **106**:044310, 10.1103/PhysRevC.106.044310

解説・プロシーディング・紀要・その他

永田 誠, 武井 由智. Sós 置換に関する Surányi の全単射のある 2 次元版について. *大阪医科大学薬科大学薬学部雑誌* **2**:21-55,

学会発表等

竹本 宏輝, 明 孝之, 堀内 昶, 土岐 博, 井坂 政裕, Niu Wan, Chang Xu, Mengjiao Lyu, and Qing Zhao : 核力の強い斥力芯を考慮しても ^{12}C の Hoyle 状態は存在するのか? . 日本物理学会, 9 月 (岡山)

竹本 宏輝, 明 孝之, 堀内 昶, 土岐 博, 井坂 政裕, Niu Wan, Chang Xu, Mengjiao Lyu, and Qing Zhao : ^{12}C のにおける α 凝縮状態 (Hoyle 状態とその振動モード) . 日本物理学会, 3 月 (Web)

言語文化学グループ

学術論文

Amagase Y, Izumi-Nakaseko H, Sugiyama A, Takei Y. 2022. Quantification and Clonal Culture of Neural Stem Cells from the Hippocampus of Adult Mouse. *Methods in Molecular Biology* **2429**:357-365, DOI: 10.1007/978-1-0716-1979-7_23

Takei Y, Amagase Y, Iida K, Sagawa T, Goto A, Kambayashi R, Izumi-Nakaseko H, Matsumoto A, Kawai S, Sugiyama A, Takada T, Hirasawa A. 2022. Alteration in peritoneal cells with the chemokine CX3CL1 reverses age-associated impairment of recognition memory. *Geroscience* **44**:2305–2318, 10.1007/s11357-022-00579-3

総説

Amagase Y, Kambayashi R, Sugiyama A, Takei Y. 2023. Peripheral Regulation of Central Brain-Derived Neurotrophic Factor Expression through the Vagus Nerve. *Int J Mol Sci.* **24(4)**:3543, 10.3390/ijms24043543

解説・プロシーディング・紀要・その他

スミス 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー . 2023. 英語医療用語における多義語の習得と学習者の意識調査. *大阪医科薬科大学 薬学部雑誌* **2**:5-20,

田邊 久美子. 2022. 『イングランドの四季の詩』より「秋」の部. *文学と評論* **第3集・第15号**:56-66,

田邊 久美子. 2023. The Winter's Tale とルネサンス期の魔術. *人文研究* **第54号**:41-70, ISSN 27581020

田邊 久美子. 2023. 『お気に召すまま』における fancy. *大阪医科薬科大学 薬学部雑誌* **2**:57-97,

学会発表等

スミス山下 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 野口 ジュディー : 多義語である英語医療用語の習得と学習者の意識調査. 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 ESP 研究会 2022 年度第 1 回研究会, 7 月 (Web)

スミス山下 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー : カタカナ語の対応がある医療専門語彙の発音の学習. 2022 年度 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部大会, 3 月 (Web)

天ヶ瀬 葉子, スミス 朋子, 神前 陽子, 堀 朋子, 村木 美紀子, 野口 ジュディー : 英語医療専門用語指導における発音指導の重要性の検証. 日本薬学会第 143 年会, 3 月 (札幌)

田邊 久美子 : 『お気に召すまま』における男装・視覚・fancy. 第 60 回シェイクスピア学会セミナー, 10 月 (兵庫)

人間文化学グループ

学術論文

城下 賢一. 2023. 岸信介と佐藤栄作：兄弟の戦後政党政治史. *日本歴史* **896**:99-105,

解説・プロシーディング・紀要・その他

城下 賢一. 2023. 規制改革と農政 2013-2019 規制改革会議における農政議論の推移. *大阪医科薬科大学紀要人文研究* **54**:71-88,